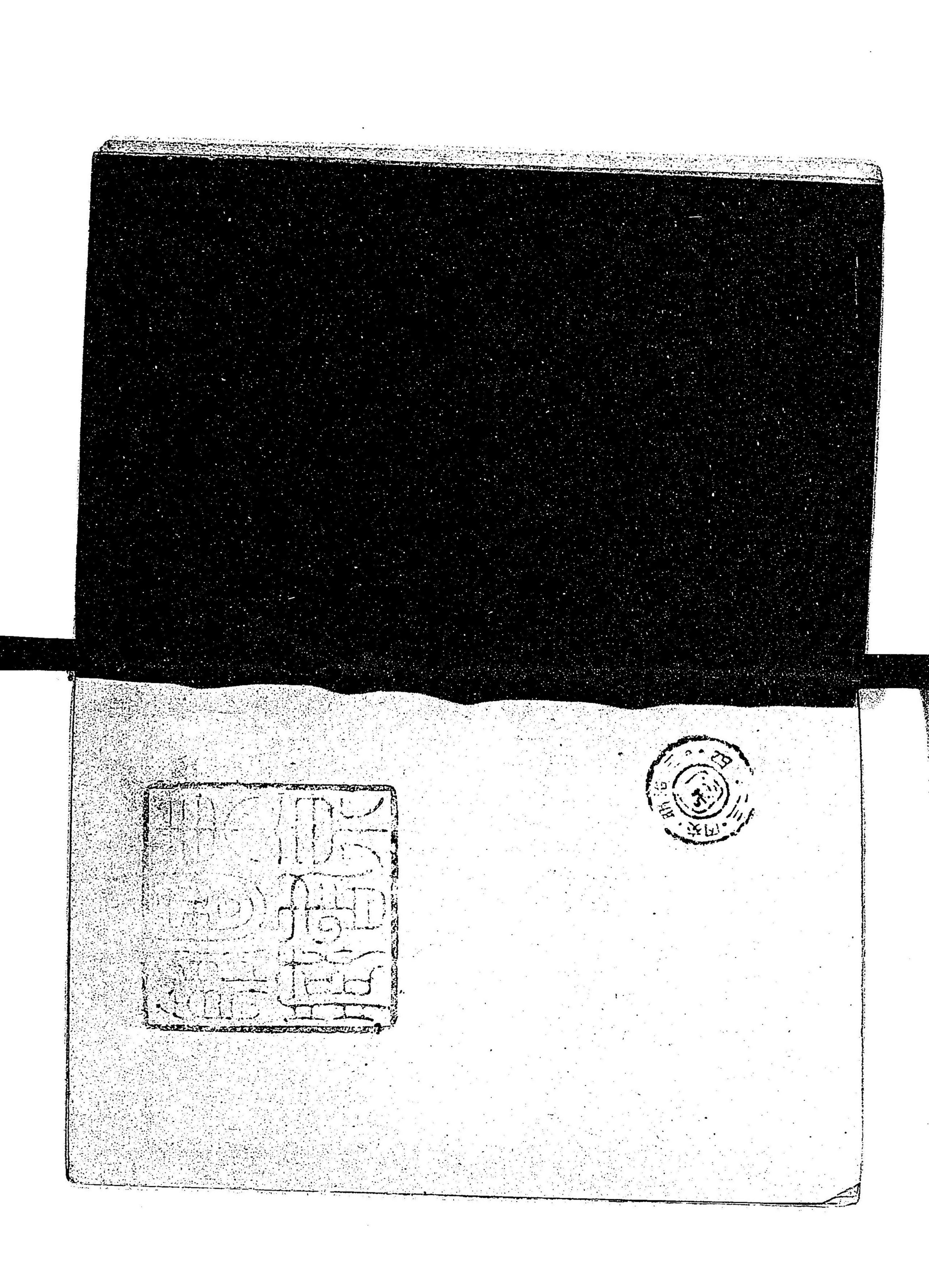
兵庫縣知事周布公平君題字
海關橋本小六先生題詩
田所千秋大人題歌
白洋鍋嶋直身君編纂

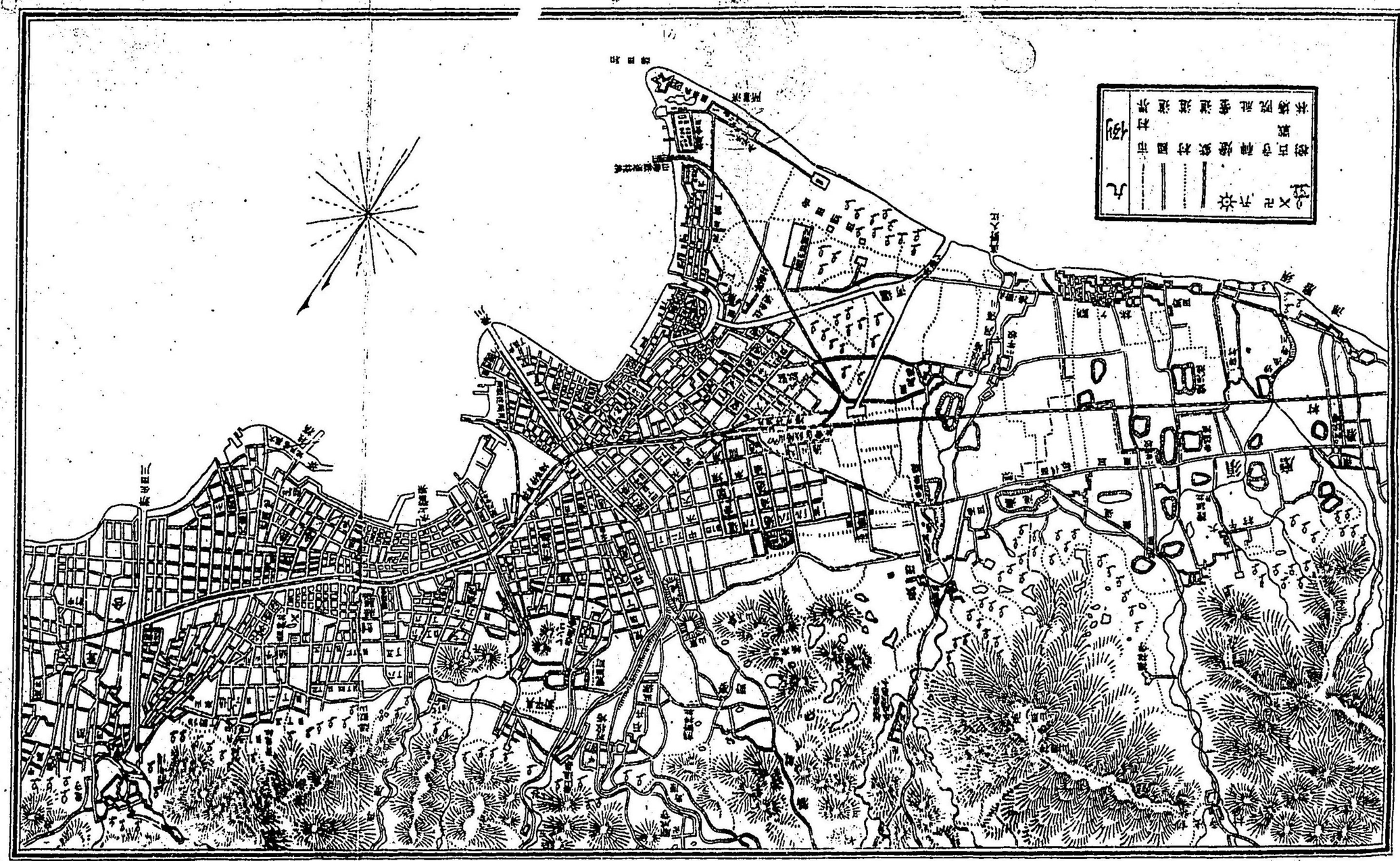
神戸名勝案内記

附近傍

神戸須磨全地圖入

發兌書林　神戸　日東館




凡例
神社
寺院
郡
市
村
道路
鉄道
海岸
43
9

山家

訓茶

昭治丁酉

仲春題

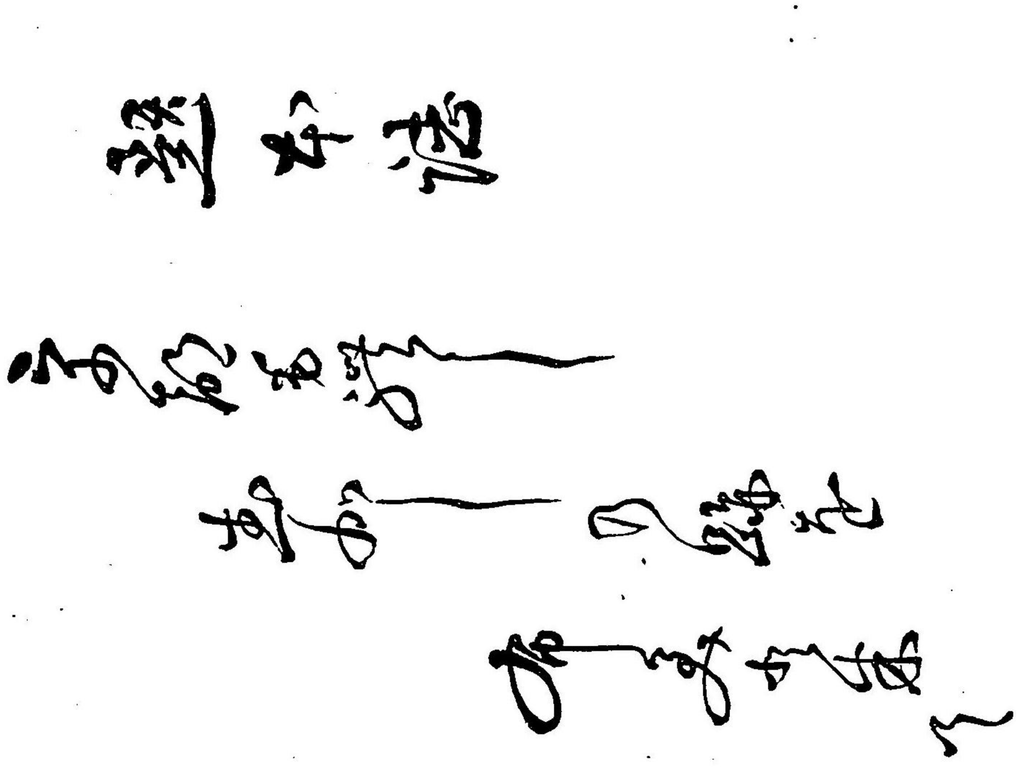
石年

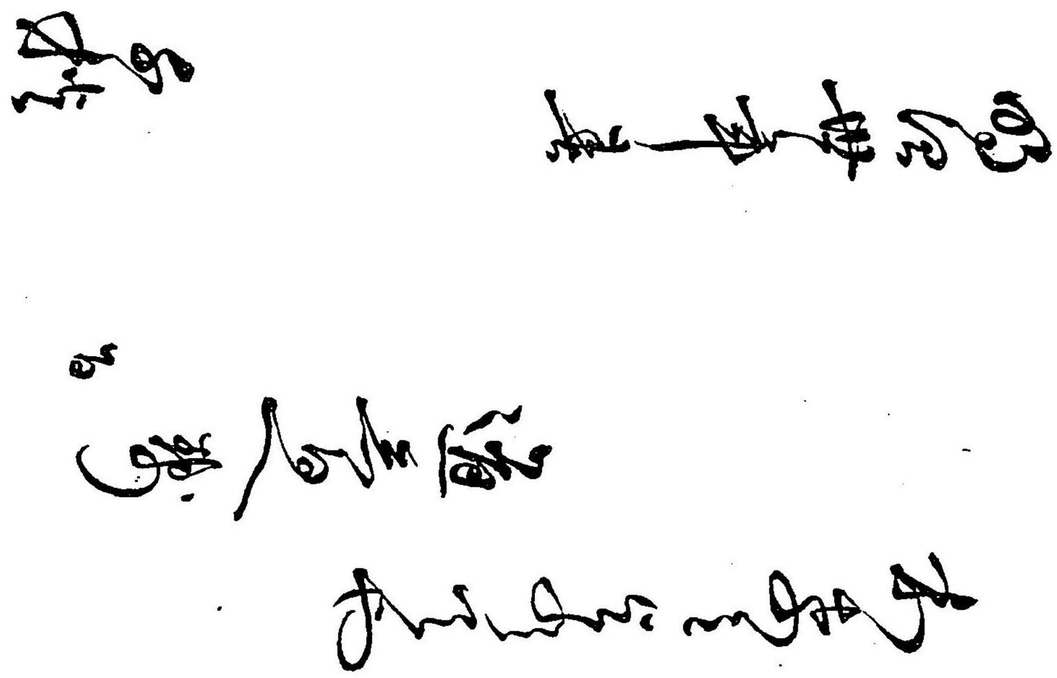
海客酣於醉晚
暉火猶船自米
州泊風高捲
煤煙去斜避

楠公殿聯抄

神戸雜詩之一

海舟





凡例

一本書は專ら實地を寫すを以て趣旨とすれは事毎に詮索を力めずたゝ實地の古記口碑に符合せざるもの又は必要なるものに限り考證を付す

一各所一として多少の沿革あらざるものなし然れども一々之を細記せんには事長くして煩に耐へず故に要なきものは渾て省き欠くべからざるものはその大都を記す

一俗説に近きもの或は虚誕に似たるものあれども特更にその是非を究めず只聞くまゝを誌しとゞむ

一記する所はすべて明治三十年一月一日の現況にして員數の年計又は平均にかゝるものは明治二十九年中に属せり

一巡覽の次序は湊川神社に始まり中町部の東より北に西及南に移り相生橋に出て神戸部の鐵道線以南を東に脇濱にいたり同線以北を西に奥平野に入り石井、烏原、夢野を過ぎ懐下山を越えて兵庫の西北より舊國道筋以北

を東に島上町より中の島に渡り再ひ同筋の以南に出て和田岬近傍旣池、長田、池田を經て駒林、野田に終れり

但し須磨、明石の如き名所を捨てゝ記さゞらんもさすがに物足らぬ心地すれば其外の名所と共に附錄に記せり

神戸名所巡覽案内

目次

○發端　一
○湊川神社　八
○楠正成公墓　九
○忠魂紀念碑　一四
○菊水文庫　一四
○多聞通　一四
○八宮神社　一五
○神戸地方裁判所　一五
○神戸區裁判所　一五
○未決監　一五
○神戸商業學校　一五
○安養寺　一六
○安養寺山共葬墓地　一六
○福原花街　二三
○聚嚴寺　一六
○招慶院　二五
○楠公塚上老梅　一七
○光藏坊　二六
○師範生招魂碑　一八
○湊川小學校　二六
○芭蕉翁句碑　一八
○差方塚　二七
○神田某紀念碑　一八
○相生町　二七
○司獄官招魂碑　一八
○緑紅再製所　二七
○仰誠忠表碑　一九
○神戸鐵道停車場　二七
○六宮神社　一九
○鐵道　二八
○關西府縣聯合共進會場　一九
○鐵道三奇觀　二九
○安德天皇行宮蹟　一五
○神戸鐵道局　三〇
○差方塚　一六
○鐵道棧橋　三〇

○石鹼製造所　三一
○鳴行社燐寸製造所　三一
○川崎造船所　三一
○蟹川　二二
○蟹川船渠　三二
○宮內省御用邸　三二
○關西商業日報發行所　三三
○神戸商業會議所　三三
○神戸電話交換局　三四
○神戸市役所　三四
○兵庫警察署　三四
○相生橋　三四
○宇野川　三五
○元町　三五
○走水神社　三六
○極樂寺　三一
○善照寺　三一
○南京町　二二
○勸商場　三二
○三宮停車場　三二
○三宮電信支局　三三
○三宮電話所　三三
○柴町　三四
○神戸郵便電信局　三四
○神戸又新日報發行所　三四
○輸出茶製造所　三四
○電氣燈供給所　三五
○辨天濱　三五
○嚴島神社　三六
○辨天濱波止場
○海岸通　三六
○日本郵船會社支店　三六
○第三波止場　三七
○神戸港長局　三七
○水上警察分署　三七
○送迎會社船橋　三七
○解船組合棧橋　三八
○四稅關　三八
○大阪商船會社支店　三八
○第二波止場　三八
○河兄弟墳墓舊跡　三九
○三宮神社　三九
○西洋製紙場　三九
○神戸警察署　四〇
○外國人居留地　四〇
○遊歩場　四九
○神戸稅關　五〇
○第一波止場　五〇
○外國棧橋　五〇
○瓦斯燈供給所　五一
○生田海　五一
○生田浦　五一
○生田磯　五二
○舊生田川　五二
○生田小野　五三
○海軍造船所　五四
○小野船渠　五五
○外國人墓地　五五
○八幡神社　五五
○屠畜所　五六
○雲中小學校　五六
○神戸中學校　五六
○生田川　五六
○製革所　五七
○天王塚　五七
○古塚　五七
○法然松　五八
○阿彌陀寺　五八
○南宮八幡神社　五九
○德清寺　五九
○八幡神社　五九
○巷日野共葬墓地　六〇
○泉隆寺　六〇
○慈如上人腰掛石　六一
○八幡神社　六一
○瀧勝寺　六一
○布曳瀧　六二
○妙見堂　六五
○布曳溫泉　六五
○川崎美術館　六七
○關帝廟　六七
○二宮神社　六八
○生田里　六八
○生田森　六九
○生田神社　七〇
○生田池　七二
○般梅　七三
○梶原井　七三
○敦盛祠　七四
○神功皇后鈎竿竹　七四

○生田公園　七四
○生田山　七四
○松永久秀城墟　七五
○天滿神社　七五
○一宮神社　七五
○炭酸泉　七六
○城ヶ口共葬墓地　七六
○高直盛直主墓碑　七七
○諏訪山溫泉　七七
○諏訪神社　七九
○諏訪山公園　七九
○金星觀測標柱　七九
○妙見堂　八〇
○再度谷　八〇
○弘法瀧　八〇
○糸櫻瀧　七四
○小屋塲　七五
○中地藏　七五
○猩々池　七五
○大龍寺　七六
○蛇谷　七六
○閼伽井　七七
○梵字石　七七
○龜石　七九
○弘法大師御杖櫻　七九
○多々部城墟　七九
○四宮神社　八〇
○山路城墟　八〇
○兵庫縣師範學校　八〇
○兵庫縣警察本部　八一
○兵庫縣會議事堂　八一
○神戸小學校　八一
○花隈城墟　八一
○福德寺　八二
○善福寺　八三
○神戸病院　八三
○神戸檢疫院　八三
○傳染病室　八四
○長樂寺　八四
○神戸測候所　八四
○中華義莊　八四
○中華會館　八五
○五宮會社　八五
○地藏院　八五
○祥福寺　九〇
○祇園神社　九〇
○天王溪　九一
○湊山溫泉　九一
○大山咋神社　九二
○豐國稻荷神社　九二
○監獄　九二
○靈山寺　九二
○素盞烏神社　九二
○千鳥瀧　九三
○願成寺　九四
○越前三位平通盛卿塔　九四
○小宰相局塔　九五
○乳母吳服塔　九五
○住蓮坂　九六
○住蓮坊墓　九〇
○夢野　九一
○氷室神社　九一
○夢野清水　九二
○傳染病死者火葬所　九二
○東山避病院　九二
○瀧川燐寸製造所　九二
○兵庫停車場　九二
○山陽鐵道會社　九三
○柳原町　九四
○福昌寺　九四
○苦樂松翁墓　九五
○福源寺　九五
○蛭子神社　九六
○二本松營　九六
○福嚴寺　九六
○蒼宮護國松　九六
○久遠寺　九八
○征清軍人忠魂碑　九九
○鎮國寺　九九
○愛宕神社　九九
○兵庫小學校　九九
○嚴島神社　一〇〇
○龍燈松　一〇〇
○理教院　一〇〇
○明治社燐寸製造所　一〇一
○新橋　一〇一
○湊川遊園地　一〇二
○湊橋　一〇二
○湊町　一〇三

○八幡神社 一〇八
○藤之寺 一〇九
○極樂寺 一〇九
○惠林寺 一〇九
○長傳寺 一〇九
○法界寺 一〇九
○西幸寺 一一〇
○濟鱗寺 一一〇
○金光寺 一一〇
○戸波警察署 一一〇
○兵庫郵便電信支局 一一〇
○兵庫電話所 一一〇
○平重盛卿故墟 一一一
○七宮神社 一一一
○影向松 一一二
○佐比江 一一二
○船繋石 一一三
○猿田彦神社 一一四
○若狹守平經俊卿墓 一一四
○日向神社 一一五
○兵庫石炭庫 一一五
○砲臺跡 一一五
○湊川 一一五
○湊江 一一七
○兵庫津 一一八
○武庫水門 一一九
○船橋 一二〇
○大阪商船會社支店 一二〇
○築島 一二〇
○來迎寺 一二一
○松王小兒入海標石 一二四
○松王塔 一二五
○妓女妓王塔 一二五
○俳人大魯碑 一二五
○新川 一二六
○稅關出張所 一二七
○水上警察出張所 一二八
○阿彌陀寺 一二八
○兩榮社精米所 一二八
○柳泉寺 一二八
○寶球寺 一二八
○神明神社 一二八
○法蓮寺 一二九
○永福寺 一二九
○能福寺 一二九

○大佛 一三〇
○大悲學校 一三〇
○淨樂寺 一三八
○眞婦橫山家子碑 一三一
○銅露佛 一三一
○鐘鑄場共葬墓地 一三八
○桶水盤 一三二
○瓦燒社燐寸製造所 一三二
○六字名號塔 一三八
○平忠快墳 一三二
○逆瀨川 一三二
○新川花街 一三八
○長樂寺 一三二
○和田笠松 一三二
○日本精米會社精米所 一三九
○一遍上人御笠松 一三三
○佳吉神社 一三三
○浮橋 一三九
○眞福寺舊蹟 一三三
○平相國清盛公塔 一三三
○大和田泊 一四〇
○滿福寺 一三三
○但馬守平經正卿墓 一三三
○大和田濱 一四一
○天滿宮 一三四
○八棟寺舊蹟 一三四
○和田入江 一四一
○兵庫分監 一三四
○須佐入江 一四二
○眞光寺 一三四
○茅御所舊蹟 一四三
○一遍上人廟 一三六
○藥仙寺 一四三
○第四十四世遊行上人墓 一三七
○靈佛出現地 一四四
○頌德碑 一三七
○鹽泉 一四四
○遊行橋 一三七
○魚御堂舊蹟 一四五

○砲臺 一五二
○燈臺 一五三
○石油倉庫 一五四
○和田岬鐵道棧橋 一五四
○和田神社 一五四
○和田公園 一五五
○三石神社 一五五
○吉田新田避病院 一五六
○吉田新田紡績所 一五六
○福原故都 一五七
○福原内裏跡 一五八
○寶滿寺 一五九
○法隆寺蹟 一六〇
○八幡神社 一六一
○句梅 一六一
○眞野里 一六二
○眞野浦 一六三
○眞野海 一六三
○眞野池 一六三
○眞野入江 一六四
○眞野繼橋 一六四
○淀繼橋 一六五
○眞野榛原 一六六
○菊藻川 一六六
○武藏守平知章卿墓 一六七
○監物太郎頼方主墓 一六八
○越前三位平通盛卿塚 一六八
○木村源吾重章主塚 一六九
○長田里 一七〇
○增田山 一七〇
○長田神社 一七〇
○八雲橋 一七二
○廿七八年戰死者紀念碑 一七二
○越中前司平盛俊主塚 一七三
○名倉池 一七三
○明泉寺 一七三
○神撫山 一七四
○蓮池 一七五
○駒林 一七五
○源氏松 一七五
○薩摩守平忠度卿塚 一七六
○ざこね堂 一七七
○樂月寺 一七七
○白波松 一七八
○古碑 一七八

附錄

神戸より西の部

○板宿村 一
○飛松 一
○得能山 一
○禪昌寺 一
○戸澤光盛主墓 二
○大手村 三
○證誠神社 三
○勝福寺 三
○清友園 三
○妙法寺 四
○善福寺 四
○鷲尾氏舊屋 五
○八幡神社 五
○若一王子宮 五
○白瀧辨財天 五
○明要寺 七
○松風村雨墓 七
○鏡池 七
○鷲尾氏舊屋 七
○八幡神社 七
○須磨 八
○隧道 八
○名倉塚 九
○清德寺 一〇
○妙興寺 一〇
○月見山 一〇
○俳人西月故居 一一
○從二位平光盛卿塔 一一
○衣掛松 一一
○磯馴松 一二
○中納言行平卿謫居舊蹟 一二
○松風村雨堂 一三
○前田氏居宅 一四
○諏訪神社 一四
○綱敷天滿宮 一五
○鹽流跡 一五
○賴政墓 一五
○雷衝松 一五
○須磨寺 一六
○無官太夫敦盛卿頸塚 一七
○現光寺 一八
○風月庵似雲故跡 一八

○芭蕉句塚　一九
○關屋跡　一九
○村上天皇靈蹟　一九
○已日稻荷祠　二〇
○須磨停車場　二〇
○須磨上野　二〇
○一谷二谷三谷　二一
○內裏遺蹟　二一
○鐵拐山　二一
○鵺揃松　二二
○鐘掛松　二二
○鉢伏山　二二
○戰濱　二二
○保養院　二三
○公子塚遺跡　二三
○源病院　二三
○平家一門塔　二三
○境川　二四
○鹽屋停車場　二四
○夷垂水　二四
○海神社　二五
○舞子停車場　二五
○遊女塚　二五
○千鹽　二六
○多聞寺　二六
○舞子濱　二六
○明石　二八
明石停車場
明石城墟
谷妙見堂
本照寺　二三
人丸神祠　二三
月照寺　二四
腕塚　二四
忠度卿墓　二四
大藏谷　二五
休石天神　二五
稻爪神社　二五
ほの〳〵の濱　二六
朝貌寺　二六
波止場崎　二六
月山　二八
岩屋神社
長林寺
伊弉諾神社

男狹磯塚　三九
善樂寺　三九
無量光寺　三九
○其他の名所　三九

神戸より東の部

○忉利天上寺　四〇
○赤松圓心主戰場　四〇
○敏馬浦　四〇
○敏馬神社　四一
○求女塚　四一
○處女塚　四一
○小山田高家主碑　四一
○御影　四二
○住吉停車場　四二
○住吉神社　四二
○求女塚　四二
○雀松原　四二
○住吉川　四二
○岡本梅林　四二
○山路古城　四二
○葦屋浦　四二
○在原業平卿別莊古蹟　四二
○猿丸太夫古蹟　四二
○鵠塚　四二
○阿保親王御廟　四二
○金津山　四二
○打出濱　四二
○西宮神社　四二
○其他の名所　四二

神戸市名所案内記附近傍

發端

神戸市は我邦五港の一にして攝津國の西部にある一大都會なり其區域は元の八部菟原の二郡に跨り東西二里五町三十間南北一里八町面積二千五百五十万六千四百餘坪を有し之を葺合、神戸、中町、兵庫、林田、湊の六區に大別し更に七十五個町十四個村に細別せり地勢は東西に伸び南北に蹙り前には海を扣へ後には山を負ひ小野の海濱は和田の岬角と相對して自然の港形を爲し其間又湊川尻の海中に突出するありさらに兵庫神戸の両港に分てり港内は水深くして大船巨舶を泊するによく且陸地は西國街道の要衝に當り又鐵道の東西に通するあり貨物の運搬は更にも云はず人馬の往來にも亦頗る便利なり斯れば大小諸船は常に港内に輻湊し車馬は市中に馳せ違ひて晝夜間斷なく隨ひて商賣日に月に繁昌し今は關西一二の市場と稱せらるゝに至

これり猶以前に溯りて人煙の閑閑如何を攷ふるに兵庫は古より和田の泊と稱し船舶の出入多かりし事は古き書にもしるしたれども當時は一の船泊たるに過ぎず此處に住む者は舟子舵者のみなりしに應保年間經島の築造成就してより始めて港灣の形を完成し今の市街の地も亦此時を以てその基礎をひらきたりといふ治承四年遷都の後は一時忽ち繁華の地となり宮殿官舍を始めとし市民田夫の家屋を併せ其數五六万軒もありしと某寺の記に見えたり都は七個月にして再び平安に復せられ續きて壽永の兵亂あり。一時兵火の燒く所となりしも其後は甚しく衰ふることなく南北朝を經て元龜天正の頃にいたり遂に西攝無二の要津と成り寛永以來元祿、享保、寛政、享和、年間等の版本に據れば交易いよ〳〵繁昌して市街の賑ひ大坂にも讓らず町の數四十四あり官道岡方南濱北濱の四區に大別すと記せり近年まで岡組北組南組と稱せしは是なるべしかはあれども之を神戸開港の後に引くらぶれば閑閑の差別日を同じくして語るべからざるものあり今其一二を記しといめんに兵庫の西は柳原を東は湊川の西堤防を以て盡頭とせり古書に東の入口に佐比江と稱する所あり云々と記し又湊通八幡神祠の近傍に當驛の惣門あるを圖するを見ても今の佐比江町湊町近傍を以て限とせしと明なるべし湊川には橋梁もなく之を濟れば曠漠たる田野にして西國街道は其間を通じて一條の畷道となり東の方走水村にいたるまで凡そ十町許の間は纔かに民家三戸ありしのみ當時此邊を三軒家と稱せしは此故なりとぞ走水につゞきて二茶屋、神戸の二個村あり共に今の元町にして其東に生田宮村あり生田川を渡れば生田村及小野新田等あるも街道近き所には民家もなく生田杜に樹木森然として生茂るさへ物淋しく生田の里は只古の名をのこすのみ殊に生田の小野とし聞けば昔ゆかしき名所なるものから當時は已に見るかげもなし引きつゞきて中村あり更に數町を距てゝ脇濱村あり今の神戸市は此處にて窮り元の菟原郡岩屋村につゞけり以上兵庫より脇濱に至るまで道程殆ど二里の間街道に沿ひて民家ありしは走水、二茶屋、神戸の三村のみ中村脇濱

の両部落はやゝ街道に接近せしも一は山麓に偏し一は海濱に向ひ街道は只其地内を通せしに過ぎず其外兵庫の北には夢野烏原、石井の三個村あり湊川の東には奥平野、荒田、阪本、宇治野の四個村あり神戸の北には花隈、中宮城ケ口、北野の四個村生田川の東には能内、中尾、筒井の三個村あるも或は山腹或は山下に點在し谷に隔てられ尾に遮られ隣村との交通且ら意の如くならず固より街道とはかけ離れて敷町の外にあり生田の宮居さては三宮の神祠楠公廟所の如き今こそ民家稠密なる間にあれ當時は田園四方を圍み殊に楠公廟所は街道を距ること五六丁許も北の方にありしと云ふ海岸は湊川尻以東一帶の沙灘打續き今の辨天神社の傍には神戸村の船入場あり折には諸國の廻船も出入し土地にも船持と稱する者あり甚しくは淋しからずわけて地勢は生田川を越えて敏馬以東の十三浦を扣え自然の形勢尋常ならざるものありしも當時は波止石垣等の設もなく只所々に生茂れる葭葦の汐風に打さやぐのみ其景色こそ淋さびつゝ海邊近く漁する海士の蓬船さては汐路を通ふ帆船の外見るものとてはあらざりしなり慶應三年四月十三日始めて神戸の開港を許されしより頓に舊觀をあらため湊川以東の海岸には先づ福原の花街ひらけ之に續ぎて東川崎町あり街道も其頃より人家を増し名を命して相生町と稱せり明治三年鐵道敷設の事あるに當り福原町を今の處に移し東川崎、相生、二個町の幾部を削りて用地となし其際近傍の地を開き今の橘通、多聞通、仲町通、古湊通等の市街を作り阪本、宇治野の二個村をつらねて兵庫神戸の兩地に接續せしめ其地兵庫神戸の間にあるを以て仲町といへり神戸は開港の當時走水、二茶屋、神戸の三個村を以て神戸町と稱し其東端に居留地を開き後漸く地域を擴め西町、本町、松屋町、札場町等に區別せしに五年正月海岸通を同年十一月長狹通を六年五月山手通を同年十一月榮町を開き前の諸町は各其最寄に合併する等始めて街形を大成し其外生田川を堤めては加納町を作り辨天濱を築きては辨天町を置き又山本通、三宮町を作る等前後新市街の成るもの枚擧するに遑あらず北野、城ケ口、

中宮、花隈、の諸村も此際より一列に市街に續き明治二十二年市制を行ふに及びては元の菟原郡葺合村を併せ其以前に開きたる小野の市街を始め生田熊内の二部落は加納町に接續し中村、中尾、筒井、脇濱に至るまで齊しく神戸の市内に入り同時に又元の八部郡荒田村を併せ西北に向ひて地域を擴張せり兵庫市街も年を追ひて市區を改正し南は和田岬に至るまで民家軒を列らね其外田苑沙灘の市街となるもの少からず其最も著しきものを擧れば明治二十四年を以て羽坂、塚本、大開、水木、中道の諸町を開き二十七年には濱崎、入江、小河、須佐野、松原、芦原、住吉、今出の新市街を作りさらに二十九年にいたり元の八部郡、林田、湊の二個村及須磨村の一部を併せ奥平野、石井、夢野、烏原、東尻池、西尻池、長田、駒ヶ林、野田、御崎、今和田新田、吉田新田、池田等の大字も市内に加はり今は兵庫西端の新市街より東の方葺合の市街を列らね商家軒を並べて殆んど隙なく殊に國道縣道等に沿ひたる土地は市の東端脇濱に至るまで東西聯絡して一大市街の形と成り遂に前に記するが如き面積を有するに至り目下人口十八万千四百九十二戸數四万六千〇二十七の多きに上れり之を開港の當時にくらべては土地の增加せしこと幾倍なるを知らず人口戸數の如きは姑く六年の現在に照らすに實に二万九千四百八十戸十四万五百五十二人を增加し今も猶毎月二百餘戸を增し人口も之に伴へりと云ふ是等の戸口は神戸、兵庫を中心として漸く東西に蔓延し數年を出ずして殆んど空地なきに至らんとする模樣あり況して鐵道は年を追ひて東西に伸暢すべく港灣もまた改築の議ありと聞くまことに然あらんには如何に海陸の便利を得て又一層の繁華を添ふるに至らん寔に　聖代の賜といふべしわけて此地は江山の眺に富み氣候は寒暑兩ながら度に適ひ土地の高燥なる空氣の新鮮なる一として人によろしからずといふ事なし見るべきものは新となく舊となく到る處に多く其新なるものには文明諸國の風俗を始めとして新に發明せし工藝學術等未だ各地に

遍ねからざるものあり舊きものに至りては古歌の名所故人の舊蹟はさら也

壽永建武の戰場として其名を歷史に傳へたる所少からず殊に東は芦屋武庫の浦曲を經て涙華につらなり西には又須磨明石のごとき名所あり偏に土地の繁榮商買の昌盛なるのみにあらず新を尋ね舊を探りて學藝を資げ風懷を伸ぶるにも亦適當の所にして旅客の足をとゞむる者鮮からざるべし然ればあらゆるものゝ光景を記述し此地を巡覽する者の爲めに東道の主人となるもまた徒事にあらざるに似たりいでや筆を湊川の御社に起さん

湊川神社

多聞通二丁目にあり贈正一位橘朝臣楠正成公を祀る所にして別格官幣社に列せられ海内の庶民其德を仰がざるものなく兵庫東部は概して産土の神と崇めまつり御社のある所を多聞と呼び又近傍の市街を橘さては楠と稱しすべて公に因緣ある名をおはするも自ら御稜威の高きを知るに足るべし社殿は明治五年の造營に係り本社拜殿以下建物十七棟あり孰も壯嚴美麗を極め社側の林泉は最も風致に富めり境内凡そ七千餘坪清らかにして一點の塵をとゞめず其左右には茶舗遊伎場軒を列ね夜間は露店を出す者多く殊に春より夏にかけては其數六七百に及ぶこと常の如く其賑ひ大方ならず例祭は毎年五月廿五日にして當日は公の戰死を遂げ賜ひたる日なるにより取わけ參拜する者多く神輿は市内各所に渡御し神事にあづかる者の中には菊水の徽章ある揮物せし騎馬武者數十轡をならべて供奉しまつる等坐にそのかみのしのばれて轉た嗟歎に勝ゑざるものあり明治二十七八年外國に事あるに際しては出征軍隊の休息所と定められ忠勇無二の軍人共日夜御前に打集ひて國家の安全武運の長久を祈るも頼もしく神も然こそは感納し賜ひけるなど語り傳へては涙を流す人もありしとかや

楠正成公墓

湊川神社境内にあり元祿四年水戸中納言光國卿の建る所にして碑の高三尺八寸幅一尺六寸厚一尺五寸和泉石を以て作れり碑下の龜趺は幅二尺三寸長三尺京師白川石なり中段は高二尺方五尺四寸下段は

四つ石を摺合せて成る高五尺方一丈竝に花崗石を用ゆ碑の面には
嗚呼忠臣楠子之墓」の八字を題す卿の筆なり背には明の徵士朱舜水の
賛を刻せり并は
忠孝著レ于二天下一日月麗レ乎」天云々」二百八十餘言公の忠烈を稱するも
のにして遍く人の知る所なり其末に
右故攝河泉三州守、贈正三位近衛中將楠公賛、明徵士舜水朱之瑜字魯璵
之所レ撰勒代二碑文一以垂二不朽一」と記せり地中には石棺を埋め棺の中に
は經一尺二寸の圓鏡を納め其鏡に
楠正成靈、源光國造立」と鐫付たりとぞ又碑畔には公に從ひて難に殉せ
し傑士十數人の名を刻せし小碑を添へたりては古記に見るす後人の作り
しものなるべし雨覆は元の領主青山主の造立に係れりと云ふ此地は元阪
本村に屬し西國街道の北に當り五六町許も距りたる田畦の間にあり初は
一堆の塚のみにして其上に松梅二本生たちて自から標示と成れり或は梅

あるが故に梅塚とも稱せしとかや元祿年間光國卿當地を過り公の墳墓を
訪はれしも其頃までは然る印もなく何處なりとも分らざりしを卿は深く
遺憾に思はれ歸國の後從士をして捜索せしむること再度にれよび遂に此
處なりと知る事を得て斯くはものせられしなりと云說もあり如何にや但
し從士佐々木某奉行たり名所圖會には村人の說を引き此時不意に多くの
武士來り一夜のうちに造立したるを領主莊官等も其故を知らず何事な
りや抔不審せし由を記し巡覽圖繪にも一夜の內に誰となく運送して建歸
れりとあり然れども卿より廣嚴寺に賜ひたる書簡には力を石碑造立に致
せしを謝する語あり此書現に同寺にあれば同寺も其事に與りしなるべく
然のみ秘せられしにはあらざるに似たり開港の前までは只碑石の添たる
のみ凡ての樣昔に變らざりしは下に記する詩にても知るべし當時は楠寺
の奉仕せし所にして街道には楠公の墓と刻せし石標を建て參詣する者の
枝折とせしに今は湊川の神祠に屬し石標も早や其要なく已に取捨られて

在る所を知らずと云ふ猶廣嚴寺の條を參看すべし當所及公の上にかゝる古人の詩篇頗る多し今其一二首を左に抄錄す但し茶山翁の作は生田村にて成りしものと聞ゆれども當所に切なれば姑く此處に記載す

偏勤二王事一途無レ違、致レ命弟兄心相似、今看田間餘二墓石一、離々禾黍淚霑レ衣　杉美仲

千歲恩讎兩不レ存、風雲長爲吊二忠魂一、客窓一夜聽二松籟一、月暗楠公墓畔村　菅茶山

東海大魚奮二鬣尾一、蹴二起黑波一汗二黼衣一、隱島風雲何慘毒、六十餘州總鬼虺、誰將二隻手一排二妖氛一、身當百万哮闘軍、揮戈擬招虞淵日、執市同剛卽墨雲、關西自有二男子在一、東向寧爲二降將軍一、旋乾轉坤答二値遇一、洒二掃輦道一迎二鑾輅一、論二功睢陽一最有レ力、李郭何必安二天步一、出將入相位未レ班、前狼後虎事復艱、獻二策天閽一何得レ逢、委二身賊刄一重不レ還、且餘二兒輩一繼二微志一、全家骨肉殲二王事一、非レ有二南柯存二舊根一、偏安二北闕一向二何地一、攝山透迤海水碧、吾來下レ馬兵庫驛、想見訣レ兒呼レ弟來、戰レ此、刀折矢盡臣事畢、北向再拜天日蔭、七生二人間一滅二此賊一、碧血痕化五百歲、茫々春草長二燕麥一、君不見君臣相鬪骨肉相呑、九葉十三世何所存、何如忠臣孝子萃二一門一、万世之下一片石、長留二英雄之淚痕一　頼山陽

兵機妙用恰如レ神、自是中興第一人、可レ憾君王無二皂白一、令二臣累世作二忠臣一

煌々銘字剝二貞珉一、三世勤王無二等倫一、猶是湊川橋下水、寒聲咽切哭二忠臣一　篠崎小竹

前狼後虎事紛々、勞戰心知難策勳、全族殺レ身扶二正氣一、七生存レ憾掃二妖氛一、威靈永護南山月、魂魄空迷北闕雲、讀史多年燈下淚、卽今來吊酒二碑文一　梁川星巖

笠置山寒貉一邱、延元陵古水東流、南朝無限傷心淚、灑向楠公墓畔秋、　口羽夏庵

森春濤

忠魂紀念碑　湊川神社境内にあり明治十年西南の役に戰死せし者の爲めに建る所にして碑表の文字は碑名に同じ〳〵有栖川宮熾仁親王殿下の御筆なり左側には明治十五年壬午夏と記す其高三丈許四方石柵を結べり其廣さ方五間許あり

菊水文庫　湊川神社境内にあり宮司折田年秀翁の建る所にして春は盆梅秋は盆菊を作り諸人の來り觀るに任すこと年々例となれり其數孰も二三百種五六百盆あり風流たる業と云へし

多聞通　湊川神社の門前より東は相生橋西は湊川までの間を云ふ一町目より八町目に至る道路幅ひろく家並惡しきにあらず日用諸品を始め飲食諸物を賣る家多し當町は今の國道に屬するを以て旅人の東西に往來する者皆此道により車馬は日夜雜沓を極め殊に湊川神社近傍を以て第一繁華なる所とせり抑當市西部の國道は其初め柳原町より湊町に屬せしを今は柳原町も已に廢せられ兵庫西部の盡頭より永澤町を經て當町に屬し直に

相生橋通り元町に接するには至りしなり當町の俄に繁華の地となりしは是等を以て著しき原因と爲すと云ふ

八宮神社　楠町の南湊川神社の東にあり無格の神祠にして熊野櫟樟日命を祭れり生田裔神八前の一なり

神戸地方裁判所　橘通にあり八宮神社の南に隣れり明治六年五月を以て開廳せしものにして初めは兵庫裁判所と稱し其後夥多の沿革あり遂に今の如く改稱せり此地は元兵庫縣廳のありし所なりとそ

神戸區裁判所　神戸地方裁判所の内にあり明治九年十月の開廳に係れり

未決監　神戸地方裁判所の東に隣れり刑事被告人を置く所にして元獄舍のありし所なり

神戸商業學校　未決監の東隣にあり初め商法講習所と稱し北長狹通にあり後元町下山手通等に移り明治十九年より縣立となり今の名に改め二十一年を以て此處に移轉せり教ゆる所の學科は校名に同じ

安養寺　楠町の山手にあり大照山と號す天暦年中の創立にして淨土宗なり元は尼ケ崎にありしを此處に移せしと云ふ元の領主青山大膳亮の菩提所にして寺後の山上に同家の墓所あり四方柵を遶らし其内に二基の大碑を建たり一は盛覺院殿廓譽道山大居士一を泰源院殿靈譽雲英大居士といふ道山居士とは大膳亮の法諱なり古書に道三に作るものあるは非なるべし目下境内七百餘坪あり建物は近年造營せしものにして頗る壯嚴なり

安養寺山共葬墓地　安養寺の後にある山を云ふ神戸兵庫兩地の共葬所にして殊に中町部の者多し山上碑碣林の如し

廣嚴寺　安養寺の西に隣れり醫王山と號す臨濟宗南禪寺派なり俗に楠寺といふ楠正成公の自殺せられし所なりとぞ當寺は元德元年　後醍醐天皇の勅願によりて元國歸化の大德焰惠明極和尚の草創せし所にして廣嚴勝寶禪寺と稱し楠公一族の菩提所と成れり本尊藥師如來は　後醍醐天皇の御寄付行基菩薩の作又弘法大師の作毘沙門天楠公傳來十一面觀音　後醍

醐天皇の御影楠公甲冑の像衣冠の像を安置し又公及和田正季主楠氏一族殉難者等の木主を祭れり寺說に曰く建武三年五月二十五日楠公一族十三人士卒六十餘人此寺に入りて自刄す禪師遺骸を路傍に葬る今の湊川神社境内にあるものの是なりと所謂禪師とは明極和尚なるべし目下境内七百坪本堂以下建物六棟佛堂二宇あり寶物の内楠公の軍配團扇采幣弓矢鎧眞筆の書翰敷通公傳來弘法大師の筆華嚴經　後醍醐天皇の宸翰水戸中納言卿の墓碑造立に關する謝狀等あり楠公眞筆の内

此度爭人差下候事非二別事一云々」の一通は既に摺物と成りて世上に傳はり遍く人の知る所なり境内に毘沙門堂あり毘沙門天を安置す前に記せし弘法大師の作は是なるべし

楠公塚　上老梅　廣嚴寺境内にあり今の湊川神社境内にある公の塚上にありし老梅にして水戸中納言卿の墓碑を建設せられし時此處に移せしものなりとぞ樹下碑あり天保四年正月二十五日の建設にかゝり藤堂某翁の

記文及詩を刻せり文は其由來を記せしものにして文政六年九月の日付なり其詩に曰く

楠公墳上一株梅、元祿年間此處栽、精忠猶守當時節、歲々南枝向日開、

師範生招魂碑　同寺境内にあり本縣師範學校生徒の内既に死せし者の靈魂を招く所にして篆額は視學官川上某氏文は校身野村某氏なり毎年一回同校職員及生徒等碑前に會して祭典を執行ふと云ふ

芭蕉翁句碑　同寺境内にあり高六尺許其表に左の如く記せり

鐵肝石心此人之情　なてしこにかゝる涙や楠の露　はせを

神田某紀念碑　同寺境内にあり高臺石とも二間餘の大碑なり題額には紀念之碑の四字を刻す醫學士神田某の爲めに建設せしものなり

司獄官招魂碑　同寺境内神田氏紀念碑と相並べり碑の大亦之に同じ篆額は内海前知縣の筆文は土屋鳳州翁の撰にして當縣司獄官吏の公事に死せし者の魂を招く所なり

仰誠忠表碑　同寺境内にあり明治元年の建設にかゝり楠公の誠忠を頌するものなり碑面

赫々誠忠嗚呼楠子靈矣云々」の文は田中某翁の撰する所と云ふ其前に手洗石あり享保某の年と刻せり即ち百七八十の星霜を經たるものなり

六宮神社　楠町廣嚴寺の前にあり社格なし祭神は　應神天皇にして生田齋神八前の一なりと云傳ふれとも祭神相違するに似たり如何にや名所圖會及巡覽圖繪には幸神祠と稱す側に觀音堂ありと記したれども今は明に六宮神社の額を掲げたり又觀音堂なるものなし

關西府縣聯合共進會場　同町廣嚴寺の西に隣れり此地は神戸開港の際陸軍砲隊の兵營ありし所なるに因り俗に鎮臺屋敷とも云へり敷地一万千二百九十二坪を有し四方木柵を結ひ南の方に正門を開く門内の正面には本館あり工産館を兼ねたり其前面の左右に奏樂所各一個所を設け又其左に農産館あり背後の最も大なるものは工産館なり其外事務所及附屬建物

數棟あり猶設計中に係るもの少からずと云ふ陳列場は前記三館にして其延物は農産館五百四十坪工産館の内一館は農産館に同じく一館は千二百六十坪なり抑も本會は富山縣以西山口縣に至るまで二府十七縣の聯合するものにして初會以來各府縣に於て開會せしこと既に數回に及び本年は當縣にて開會する筈に定まり一昨年以來諸般の準備を整へ此に至りて大抵成就せしに因り來る四月十一日を期して開會の式を行ひ爾後五十日にして本會を終り更に九月より十一月まで全國水産の大博覽會を催す筈なりとて共進會に就きては前記二府十七縣の内德島の一縣こそ本年の同盟には加はらざりつれ其他は一として漏るものなく孰も競ひて出品の申込あり其數十万四千七百六十七點にして之を細別すれば左の如し

府縣	農産物	工産物	合計
富山縣	九〇〇	九、一四〇	一〇、〇四〇
石川縣	一、七三〇	五、二七〇	七、〇〇〇
福井縣	一、六八〇	八、二五〇	九八五
京都府	二、〇四〇	一、二五一	二、六六五
滋賀縣	一、二七〇	一、七八〇	一〇、二九〇
岐阜縣	七二〇	四、五五〇	二、五二一
大坂府	二、八四〇	三、三九八	二、五〇〇
奈良縣	六、七〇〇	二、一七八	七、三九〇
和歌山縣	二〇七	四、七三〇	一〇、〇九八
香川縣	二、一六〇	二、四一五	二、三八五
愛媛縣	二、一〇〇	二、七三三	六、八九〇
高知縣	二、七七六	二、六三七	四、五一五
兵庫縣	五、三一五	二、三二八	五、五〇九
岡山縣	二、五二四	二、七九五	七、九五二
廣島縣	六、四三五		四、八五二
			九、二三〇

山口縣	二、八九九	六二三	三、五二二
鳥取縣	二、九〇九	一、六〇四	四、五一三
島根縣	一、三七六	一、五一九	二、八九五

以上は客年十二月より本年一月までに取調たる概數にして其後追々其數を增加し中には三分乃至五分の增加となるべき見込あるもの少からずとかや其種類は農產の內繭茶米麥實綿葉煙草麻の七種工產の內織物、刺繡物、染物、蒟席類、麥稈眞田、陶器、漆器、銅器、紙類、扇子、團扇、竹細工の十二種に限りたるも外に參考として出品することを得る筈なれば見るべきものも少からざるべし各府縣に於ける新案の成蹟は勿論著名の物產等眼を驚かすに足るものも亦澤なるべし

安德天皇行宮蹟　荒田町の東北有馬道の西手にあり元は池大納言頼盛卿の山莊なりしを福原遷都の際先此處に行幸あり假に皇居と定められし所なりといへり今は古松數本生茂り其下に稻荷の祠あり土人此地を權現地と呼べともその由來は詳ならず

差方塚　荒田町行宮蹟の南にあり四方は既に屋敷地となりしも塚のみは猶殘れり古書に樹木二本ありと見えたれとも今はなし治承四年大納言國綱卿の新都を經營せし時此處を基點として宮殿其他の方角を定めし所なり故に差方塚といへり平家物語に

治承四年六月九日新都の事始めとして上鄕官人達和田の松原の西の野を點撿して九重の地〻割れける云々」とあるは是なるべし仲町二丁目にも同名の塚あれども古書は往々此處を指せり猶其條をも參考すべし

福原花街　町の名も福原と呼へり荒田町の南にあり湊川の東岸に沿ひ西國街道より北に續きたる一廓を云ふ當港第一の狹斜なり其名を福原と稱するは故都の名に擬て取設けしなるへくては平家に仕へたりし局達の下關に落ふれて淺猿の業を執りしを同地娼妓の濫觴なりと云へる口碑に似通ひてをかしくは思付しものから故都の名を借りて斯る所に命するもれ

はけなきに似たり抑々當地の始りしは慶應年間にして元は相生町の東南なる海岸にありしを明治六年鉄道敷設の事あるにあたり其用地となりしが爲め同年九月此處に移り舊によりて福原と稱せしとぞ其後柳原の花街も亦此東手に移り別に稲荷新地と稱し當時は判然區域を立しも年を經るに從ひて一つらに福原町と稱し今は町内の字とは成れり世に三十軒なといへる字の如きも亦此たぐひなるべし町内の表通を中の町と呼び其外それ〳〵に町名あれともくだ〳〵しければ之を略す目下全街貸席の數百六軒娼妓九百十三人あり其外茶屋料理屋の類亦多く揃番は福撿新撿の二個所にして藝妓の席を揭る者福撿九十七人新撿七十五人都合百七十二人なり年月の久しき場所によりては多少の盛衰なきにあらざれども大通は依然として家並を崩さず明治二十九年の水災に罹り一時は顏色なき模樣なりしも昨今に至りては再び色を直し二層三層の高樓は巍然として軒を列らね玉欄珠簾柴碧色を鬥はし歌吹の聲絶ゆる時なしわけて店つきの派手

やかなるは此花街の特色とも云べし客を引くにもまた巧みなり其内最も大なるものは松浦眞田の二樓にして各々娼妓三十人あり互に相下らざらんとするもの〻如く色葉樓は娼妓の數二十二人にして渾て京風に倣ひ別に一乾坤を開けり其外長谷川樓、愉快樓、同支店以下大籬と稱し娼妓十四五人乃至二十人を有するもの十數軒あり中店小店に至りても亦それぞれの住處あるべし是等孰も燕趙の殊色を撰み且地は酒泉に近く又五湖の利ある等人は目を喜ばしめ物は口に適へりたとへ流連三旬に及ぶとも愈々つゝしみて益々うや〳〵しく萬欲する所のまゝなり喜見城の昔は見ざれば知らず思ふに斯の如き所をいふにやあらん當港を經る者一度は此地を蹈み花を品し柳を評するもまた一興なるべし

招慶院　福原町にあり釋迦佛を本尊とし又觀世音の像　後醍醐天皇の御位牌を安置す當院は元山城國嵯峨野にあり嘉慶二年足利二代將軍義詮公の母堂勝鬘院の創立せしものにして應永六年火災に罹り同八年四代將軍

義持公再興せしも永享元年再び回祿の災あり同二年七代將軍義教公又之を興せしに應仁の亂に遭ひて兵燹にかゝれり其後大永十五年に再興して文祿三年に火あり慶長十一年に再興すれば又天明八年を以て燒失する等再興すること都合四度火に逢ふこと五度に及び寛政八年假に堂塔を建立し傳へて明治十五年に至り遂に敷地を嵯峨小學校に讓り建物を同村天龍寺境内に移し同二十一年八月十五日當地に移轉し舊によりて招慶院と稱せり但し初めは臨濟宗天龍寺派なりしに當地移轉の際より宗旨改め今は日蓮宗に屬すといふ

光藏坊　上橘通六丁目にあり天臺宗寺門派にして本尊は不動明王脇立は大聖歡喜天なり元は江洲大津にありしを明治二十二年九月を以て當地に移せり其創立年代は延喜四年なりとぞ

湊川小學校　同通四丁目にあり神戸市立の學校にして高等尋常の二科を設け又楠町東川崎町の二個所に分教場を置けり中町部の子弟に教授する所なり

差方塚　仲町通二丁目民家の奥庭にあり高一間方四尺許の荒石を建て其表に差方塚と刻せり土地の人は昔よりありしといへども古記類の據るべきものなし上に記せし荒田町の塚と同一のものならん歟姑く疑を存して聞見せしまゝを書す

相生町　仲町通の南の通筋にして湊橋より元町までの間を云ふ開港以前の國道たり今國道は他に移りしも繁華は依然として昔日に變ることなし町並は凡そ元町に同じく中町部近傍に於ける日用諸品の供給地なり

綠紅茶再製所　相生町一丁目にあり其事業は所名に同じ山本龜太郎氏の所有にして明治二十五年の開業に係れり日々使役する職工の數は一ヶ年平均四百餘人なり

神戸鐵道停車場　同町にあり官設山陽兩線の聯絡する所にして元官設鐵道の停車場なりしを山陽鐵道の成就するに及び區域を擴めて聯絡點の停

車場とは定めしなり場内に兩線の出札所ありて乘車の切符を發賣す瀛車は各其時間を計り兩線連接して上下する樣取定め又車を更めずして直行するもの毎日數回あり神戸の西部中町及兵庫の東部より來り又是等の所に到るものは此所にて上下するを便利とするなり

鐵道

官設山陽の兩線聯絡して市内の中央を横斷し東西各數百哩に亘れり官設とは政府の敷設する所にして神戸停車場以東を云ふ明治四年始めて工事に着手し同七年に至りて成就せしものなり初めは神戸大坂間二十哩餘に過ぎざりしも今は伸張して東京に達し東西各地の鐵道に聯絡するに至れり抑當鐵道の内神戸以東大坂間は日本鐵道中第二回の敷設に係り横濱東京間の鐵道に亞ぎて成就せしものなれば諸事行屆かざる所なく近年又復線を作り瀛車の行達も自在となり便利にして且危險なることなし日本鐵道の標本なりなど評する者なるも道理なりかし山陽鐵道は神戸停車場以西にあるものにして山陽鐵道株式會社の所有に屬し明治十九年に

設計を定め二十年に工事を起し二十一年を以て兵庫明石間の運輸を始め其後漸次に線路を伸し將に九州鐵道に聯絡せんとするに至れり其間支線を兵庫以南和田岬に開き貨物の運送に便ならしむる等年を經る猶淺きも構造完全にして客を待つこと疎ならず殊に明治二十二年官私兩線聯絡して一線と成りしよりいよ〳〵交通の便利を增し旅客の東西に往來する者兩線に依らざるはなきに至れり兩線停車場の市内に在るものは惣數三個所別に記事あり踏切の數は大小數十個所あり枚擧するに堪されば爰には漏しつ

鐵道三奇觀

市内鐵道線路の内三個所の奇觀ありこは姑く私見を以て名をおはするのみすべて世に稱するものにはあらざるなり其一は三宮町の架道橋にして俗に穴門と稱する所にあり當所は鐵桁を道路の上に架すること宛然橋梁の如く瀛車其上を奔り人馬其下を往來せり瀛車人馬の頭上を奔る一の奇觀にあらずや其二は神戸停車場の北にある相生橋にして此

處は瀧車橋下を通じ人馬橋上を過ぐ穴門の架道橋に似たるも瀧車と人馬とは上下の相違あり亦一の奇觀といふべし但し相生橋の事は別に其條に記す其三は湊川墜道なり瀧車は河床より下を過ぎ河水其上を流る車上に流ある已に奇なり人頭上に川を戴くに至りては更に奇と爲さざるを得ず以上を市内鐵道の三奇觀とは爲すなり斯の如きは世間類なきにはあらざれども今集めて一市の内にあり是特にこの記ある所以なり

神戸鐵道局　神戸停車場の南にあり俗に本局と呼ぶ明治十四年を以て開局せしものにして其以前は居留地の東に在り民部省鐵道寮出張所と稱せしとかや停車場成るに及びて當所に移りしと云ふ構内に工場あり鐵道用機械器具等を製造せり

鐵道棧橋　神戸停車場の東南東川崎町の海岸にあり海中に木橋を架けて船舶の繫泊する所と爲し橋上には軌道を敷き遙に神戸停車場に連接せしむ當橋は官設鐵道の付屬にして同鐵道に關係ある貨物を運送すべき爲に設けたるものなれども民有の船舶も來繫り貨物の揚卸及び運送等を爲すことを許すと云ふ

石鹼製造所　同町にあり持主は播磨幸七氏なり當所は關西石鹼製造所の濫觴にして目下蒸氣仕掛の工場一個所を有し日々職工六十人許を使役せり

鳴行社燐寸製造所　同町二丁目にあり持主は石鹼製造所に同じ明治十九年の創業に係り南逆瀬川町葺合村筒井等に分工場を置けり日々三個所にて使役する職工の數は男百一人女四百五人惣計五百六人なり

川崎造船所　同町にあり市内の人川崎正藏氏の所有にして構内一万數千坪建物千四五百坪船渠二個所を有せり船渠の内一個所には水壓曳上長三百尺幅二十尺重量二千頓の造船臺を、一個所は人力曳上長百九尺幅十九尺の造船臺あり日々使役する所の諸職工は平均千四五百人に上れりと云ふ當所は元金澤藩の創設に係り明治二年の頃製作所と稱せしに其後政府

の所有に歸し川崎製作所と稱し六年に至り隣地にありし米國人某の製鐵所を買入れ舊製造所の地所建物を併せて一區域と爲し七年十一月船渠を開き修船臺を作り晩年名を造船所と改め傳へて十九年五月に至りしに前記川崎氏は政府の拂下を受けて其所有と爲し更に川崎造船所と稱し舊に依りて造船の事業を開けり爾來歲月を經るに從ひて漸次に事業を擴張し昨今に至りては船舶の製造修繕は更なり諸機械器具等の製造多忙を極め將來益々盛大に至るべき模樣あり

蟹川　同町川崎造船所の前より海に瀉ぐ河流を云ふ水源を北部の山間に發し湊川の東堤に添ひ當町の西に至り左折して鐵道局の南手に出て又右に折れて海に入るなり此邊昔は蟹多し故に蟹川の名ありとぞ

蟹川船渠　同町鐵道棧橋の北にあり官設鐵道に付屬せるものにして其用品の揚卸を爲す所なり他の船舶は出入することを得ず

宮內省御用邸　同町一丁目にあり元は神崎某の客店を營みし所なりしを明治十二年　主上御巡幸の時　行在所と定められ後故三條公の旅館と成り今は　皇室の御料に歸し屢々　鳳輦を駐め賜ひしことありしやに承り及べり取わけ二十七八年の役　大纛を廣島に進め賜ひしとき一時　大本營と定められしは臣民たるもの肝膽に銘して忘れざる所なるべし構內の御模樣は書あらはさんも畏ければわざと省きぬ

關西商業日報發行所　同町御用邸の西北にあり社名を中外新報社といふ當地二大新聞の一にして實業者の機關紙たり其目的は實業の發達を圖るにあるは勿論政事を論議し雜事を報道するにあり種類は日刊の繪入新聞なり當社は明治二十八年の創立に係り日を經ること猶淺しといへども報道の速なる事實の確實なる夙に世上の好評を得いよ〳〵盛大にいたらんとする摸樣あり

神戸商業會議所　同町にあり商事に關する諸般の事件を討議する所にして明治二十年の設立に係れり

神戸電話交換局　同町神戸商業會議所の南手にあり明治二十六年を以て開設せしものにして當初は獨立なりしも今は大坂同局の支局となれり神戸市内及神戸大坂間の電話を交換する所なり當局には普通の電話所をも併置せり

神戸市役所　同町商業會議所の東手にあり明治二十二年市制施行の際設置せし所にして元の神戸區役所のありし所なり

兵庫警察署　神戸市役所の北手にあり地は相生町に屬す宇治川以西兵庫部を管轄せり

相生橋　兵庫警察署の北手にあり元町の西より多聞通に出る國道にして鐵道線を跨りて架設せしものなり其地相生町に屬するを以て相生橋の名ありと云ふこは明治六年の架設にかゝり當時は本製なりしを同二十二年官設山陽の兩線聊絡せし頃より鐵橋に改め又幅員徑間を擴張せしとそ其形は普通の橋梁に異なり且瀛車は足下をくゝりて馳違ひ石炭の煙左右より立のぼりて大空に打なびける抔おのづから別樣の觀あり

宇治野川　中町部と神戸部との間にあり水源は一は再度山より一は奥平野の山中より來り宇治野町の北手にて合流となり同町を經辨天濱に至りて海に瀉ぎ自然に神戸中町兩部の境界となれり攝津志には源を宇治野の山中に發すとあり兵庫名所記には水上に宇治野村ありと記せり水源といふは誤なるべし今は宇治川と稱するものあれども古名はたしかに宇治野川なり開港以後の書類にも皆宇治野川と見えたり

元町　宇治野川の東岸相生橋の東より三宮町に至る市街を云ふ元の西國街道にして昔は走水、二茶屋、神戸の三村に分れ街道に沿ひて人家ありし所なり故に元町と名けしなるべし東西凡そ五百數十間區分して六個町と爲し近年大に道幅を擴めいよ〳〵舊時の觀をあらたむるに至れり其間商店軒を並べ西洋雜貨店最も多く時計、金物、呉服、袋物、菓子、煙艸を始めとし其他の諸店一としてあらざるなく神戸地方日用諸品の供給地

たり外に割烹店客舍等も數軒あり又二個所の撿番を置き一を中撿といふ藝妓の席を揭ぐる者二百二十三人一を西撿といふ同四十六人あり普通賣買の外また一種の賬を添へたり

走水神社　元町五丁目にあり元は菅原道眞公を祀り天滿宮と稱せしも維新の後近傍にありし八幡の祠を併せ其後　天照皇大神宮をも合祀し今は祭神三柱となり隨ひて走水と改稱せり俗に天滿宮と稱するは其舊名なるべし創立の年代は未だ詳ならざれども寶曆九年の書上帖に見えたれば百年以上の神祠なること疑なし目下境内三十坪神社二字あり社殿は昨今造營中に屬せり

極樂寺　元町五丁目にあり淨土宗にして本尊は阿彌陀佛なり由緒年代等未だ詳ならず

善照寺　元町三丁目にあり眞宗本願寺派本尊阿彌陀佛にして天正十三年十月の創立に係れり現今境内八百坪本堂以下建物三棟あり

南京町　元町二丁目邊の南裏をいふ淸國人の雜居する者多き故此名あり同國人の肉店雜貨店等多し内外人の需に應じて賣買を爲す支那割烹の味殊に美なり其價は廉なるにあらざれども甚しく高きにもあらずとかや

勸商場　元町一丁目にあり明治二十九年中開設せしものにして内外諸國の雜貨を賣る孰も正札を付けて餘價を云はず土地不案内の者といへども購うに便なること夜市露店の類にあらず

三宮停車場　同町にあり官設鐵道の停車場にして明治七年鐵道と共に落成せしものなり當所は市内神戸部に最寄よく港内の舢舨に出入するにも最も便利なり

三宮電信支局　三宮停車場構内にあり元官用電信局なりしに今は神戸郵便電信局の支局と成り公私の電信を取扱へり

三宮電話所　三宮電信支局内にあり明治二十六年の開設に係り廣く公衆の依頼に應せり

榮町　元町の南に隣れり明治六年十一月を以て開く所にして東西五百六十三間道幅十間あり一町目より六町目に區分せり銀行會社及貿易商の店多し

神戸郵便電信局　榮町六丁目にあり一等局なり初めは郵便のみを取扱ふ所にして神戸郵便局と稱し後神戸驛遞局と改め又郵便局に復せしに明治十九年以來は電信局を合併して今の如く改稱せり當局は元市場町にありしを明治七年を以て此處に移轉せしものなり三宮停車場及兵庫小物屋町に支局あり各その條に記す猶郵便受取所及投込場の如きは市内到處に多し

神戸又新日報發行所　同町六丁目郵便電信局の北隣にあり社名を五州社といふ縣内五個國に因みて命じたる名なるべし本紙は日刊の繪入新聞にして當地二大新聞の一なり明治十七年始めて其初號を發行せしより年を經ること既に十餘年號を重ぬること三千八百餘に及び當初より世上の好評を得て猶いよ〳〵讀者を增加せんとする模樣あり其性質は專ら政治の得失を論議し社會の雜事を報道するものにして加も不偏不黨公明正大を以て目的とし取わけ報告の迅速なる事實の正確なるに至りては最も本紙の特色とする所なり

輸出茶製造所　同町六丁目にあり明治二十年の開業に係り武田貞吉氏の所有なり毎日職工四百五六十人を使役せり

電氣燈供給所　同町五丁目にあり本社を神戸電燈株式會社といふ所在地は供給所に同じ始めて點火せしは明治二十一年にして當時は海岸通榮町元町等に止りしも今は殆んど市内に遍く其供給を仰ぐもの五千戸に近く發電器は一千燈用四臺二千燈用一臺を据付たり

辨天濱　同町の南手宇治野川末流近傍の海岸をいふ元神戸村の船入場ありし所にして其邊に嚴島の神祠ある故に辨天濱とはいふなり開港以來荷揚場を設置し明治五年に船入場を同十二年に海面を埋めて道路或は宅地

と爲し總体の海濱を併せて辨天町と改稱せり此地は海岸通の西部に接續し日夜船舶の出入多く又魚鳥獸青物等の市場あり其繁昌すること殆ど海岸通に亞けり

嚴島神社　辨天町にあり俗に辨天の祠といふ市杵島姫命を祭る所なり維新の後社號の公稱を許されしは明治十二年と聞ゆれども往古より鎮坐の神祠なることは昔より此地を辨天濱と稱し今も猶辨天町と稱するに依りて明瞭なるべし

辨天濱波止場　同町の海岸より東南に向ひて海中に突出せしものをいふ海岸通の百間波止と相望みて灣形を爲せりこは明治四年の築造にかゝり同五年同十二年等海面埋立の際多少の變動あり灣内船舶を泊するに便なれども形勢東北に向へるにより風難を避るには適當ならずと云ふ

海岸通　同町の東榮町の南に隣れり明治五年正月を以て成りしものなり元の神戸、二茶屋、走水等の海岸にして其以前は一帶に沙灘地たり目下

道幅六十尺東居留地境蓮鯉川尻より西辨天町に至るまで延長四百五十餘間一丁目より六丁目に分てり濱手は居留地を連ね一帶に石垣を築き其間波止場船渠等あり山手は商家軒を並べ楽船問屋廻漕店の類最も多く殊に旅舍の如きは室内の裝飾行屆き器具杯盤の類清潔ならざるなし中にも西村、蓬萊舍、安場、後藤、常盤舍、薩摩屋、增倉、安松等夙に其名を顯はし其外にも猶數軒あれども枚擧するに遑あらず裏手には二筋の市街あり齊しく海岸通と稱す俗に表町と區分して裏海岸と稱せり

日本郵船會社支店　海岸通六丁目にあり元三菱會社支店のありし所にして建物は明治二十二年の改築に係れり

第三波止場　海岸通三丁目より四丁目までの海岸をいふ明治四年を以て築造せしものにして東手の石垣は百五十餘間あり故に俗に百間波止とも稱す西手の石垣と相望みて港灣の形を爲し其以内を船舶の碇泊する所と爲せり當處は港中第一の船入場にして稅關、荷揚場、棧橋、船橋等あり

風波を避くるにも便よく船舶の出入も亦自由なり

神戸港長局　第三波止場にあり外國人に係る港事を掌る所にして雇外國人を置けり當時の港長マルマン氏は英國人なり

水上警察分署　第三波止場港長局の東手にあり港内に屬する警察事務を取扱ふ所なり初め水上警察所と稱せしに今は神戸警察署に屬し水上分署と改稱せり

送迎會社船橋　第三波止場水上警察分署の東手にあり長凡そ百間許其左右に船舶を繫き乘客の昇降貨物の積卸等を爲す所にして内國滊船の當港に入るもの多く此所に繫泊す滊船大なれば四艘を繫ぐことを得へく小なれば六艘を繫ぐべしこは明治十五年中北風某氏の架設せしものにして今は送迎株式會社の所有となれり猶同會社は外に二三艘の小蒸滊船と數艘の日本船とを備へ船橋に繫らざる滊船の間に往來し乘客の送迎貨物の運漕等を爲せり

艀船組合棧橋　第三波止場内にあり送迎會社の船橋と相並べり明治七年中貿易會社にて架設せしを當組合に引受艀船乘客の昇降する所と爲せり其長八間あり

西税關　第三波止場内にあり元西運上所と稱せし所にして神戸税關に附屬し輸出入品を檢査し關税を收入する所なり

大阪商船會社支店　同通二丁目にあり明治十九年を以て開設せしものにして同社滊船の乘客貨物等に係る取扱を爲す所なり

第二波止場　同通一丁目と居留地との境にあり近傍に米國領事廳あるにより米利堅波止ともいへり石垣十間許海中に突出するのみ船舶を繫留すべき所にあらず波止の名を負するは非なるに似たり或は荷揚場と稱するものあり此名實に近し

河原兄弟墳墓舊蹟　三宮三丁目民家の間にあり兄弟は武藏國の住人にして兄を太郎高直弟を次郎盛直或は忠家といふ壽永三年二月七日追手の大

府蒲冠者範頼に從ひ生田の柵に先登し平家の軍卒眞名邊四郎の箭に中りて討死せり近き頃までは墓碑ありしも曩に城ケ口の共葬墓内に移し今は只其跡のみを遺し國道に面する路次の入口に栞の石標を留め路次には一本の古松あり土人は此處なりといへり又墓碑ありしは古松より北に當れる何某の宅地内なりといふ説もあり兵庫名所記に塚印松二本ありと記す塚一なるか如し摩津志には傍に馬塚ありと見えたり名所圖會の畫く所によれば兄弟分れて二個所となり高直の墓には松生ひたり且傍に馬塚あり兄弟の騎捨たる馬の斃れたるを葬りし所なりと記し巡覽圖繪の記する所は名所記に同し以上孰も墓碑ある事を記さず松ありし事は大抵一なり今の指す所是ならん歟墓碑は後の人の建し所なるべし又源右府より菩提寺を建られしも天正の頃兵火の燒く所となりし由古書に見えたり其跡今はさだかならざれども此邊なるべし猶すべての由來を記したるもの元町の善照寺にあり墓碑のさまは城ケ口の條に詳なり

三宮神社　同町二丁目國道に沿ひたる所にあり村社にして湍津姫命を祭る生田裔神八前の一なり昔は稻田麥隴の間にあり樹木森然として生茂りしも今は商店四方を圍み復た昔日の觀なし夜間は境内に露店を張る者多く其賑は湊川神社の境内に亜げり現時社殿以下建物五棟境内地四百六十餘坪境内神社七宇あり町名を三宮と稱するものは御社の名に依るなり

といへり

西洋製紙場　同町一丁目にあり明治十五年の創業にして神戸製紙會社と稱す米國人何某の所有なり蒸氣仕掛の工場一個所を有し機關の數は四、公稱馬力は八百、日々使役する所の職工は男女合せて四百三十人なりと云ふ工場は材料を撰擇する所以下七八個所に分ち中にも抄漉する所に至りては一面宛然河川の如く機關の運轉するに從ひて材料の流過すること水の低に就くに似たり其間に數個の機械あり一個を漉過する毎に漸く濃く遂に一大紙片と成りさらに一個の機械に觸れば忽ち數片に切斷せられ

分れて普通の紙片と成るなり前後すべて人力を用ゐず恰も自然にして成るもの〻如く一看人目を驚かしむるに足るものあり

神戸警察署　同町にあり市内宇治野川以東を管轄する所にして廳舍は近年の新築に係れり

外國人居留地　同町の南にあり東は舊生田川に西は元町、榮町、海岸通等の東端に接し南は海岸に起り北は國道の南に至るまでを區域とせり當地は開港の際開きし所にして總反別十七町餘反歩あり元は神戸村の地に屬し一面の畑地なりしを慶應三年を以て地平均に着手し明治元年に至り成就せしより數回に分ちて外國人に競賣せり其際開く所の道路縱横十四條あり之を海岸通、前町、仲町、北町、裏町、東町、伊藤町、江戸町、京町、浪華町、播磨町、明石町、西町等に分ちしも今は其名を稱ふるものなく一つらに居留地と呼べり此地始めて開けしより外人の來り住む者年を追て多く各國領事館を始めとし行司局さては倶樂部其外會社商店等

高樓大廈軒簷相連り今は尺寸の空地を餘さず石室玻窓朱碧相映して粲然人目を驚かしむるに足れり誰やらんの句にも

港東蕞爾三千畝、自是坤輿六大州、とあり万國の人種來りて一所に集り相雜りて隣を爲すもめづらかなり此外にも外國人雜居地と稱する所あり東舊生田川より西宇治野川に至るまでの間といふこは開港の際居留地未だ成就せざるに既に開港を許せし爲め外國人の來る者多く之を置く所無るべからざるに因り內國人と相雜りて居住することを許せしものなり該地も年々雜居する者を增加し殊に北野山手通等地面高き所に家屋を搆ふる者多し居留雜居兩地に於ける外國人の戶口を調査するに惣數五百八十九戶千九百十二人にして其細別は左の如し但淸國人は一時千四五百人に至り戶數も隨ひて多かりしに日淸戰爭の爲め本國に歸る者多く平和の後再び渡來せし者少からざりしも未だ前日の如く多數なるには至らずと云ふ

國籍	戸數	人口 男	人口 女	人口 計
英吉利	二百六十八	百五十四	四百二十二	
亞米利加	百九十五	七十九	百五十二	百三十一
佛蘭西	七十	十一	三	十四
獨逸	六	百	三十九	百三十九
和蘭	七十	七	五	十二
瑞西	十	五	三	八
丁抹	二			
葡萄牙	十二	二十一	十一	三十二
白耳義	一	二	二	四
伊太利	一	一	一	一
墺地利	三	五	三	八
洪牙利	二	二	三	五
瑞典、諾威	一	二	四	六
露西亞	六	五	四	九
西班牙	二百十	八百八十八	二百三十三	千百二十一
清				

遊歩場　居留地の東手、同前通、同西手の三個所にあり共に内外人の隨意遊歩することを得る所にして東手にあるものは明治四年を以て開きし所なり元神戸村の墓地なりしと云ふ其區域は居留地の北端に起り同南端に至る面積凡そ九千五百坪ありすべて居留地の東部を掩ひ一帶の芝生は茵を敷きし如く左右に生茂る老松に映じて蒼然たり前通は税關の西手より居留地の南部を掩ひて第二波止場の側に至る長は凡そ東手に同じく幅は二十四間あり面積東手より狹しといへども位置海に面するを以て眺望は彼に勝れり西手にあるものは地域最も狹く且芝生なきも樹木森然として物ふかき所趣多し殊に日光うとき為め夏時の納涼に適せり

神戸税關　外國人居留地の濱手にあり地は加納町に屬せり元東運上所と稱し後東税關と改め明治七年以來は神戸税關と稱す當港輸出入品の關税を收る所にして港内各税關出張所等を統轄せり

第一波止場　神戸税關の前にある船渠をいふ石垣東より東南を圍み其内自然に灣形を爲し日々船舶の出入多く殆んど海上を徒歩し得べき模樣あり此地は元神戸村の船溜にして幕府の海軍所を置きし所なり慶應元年開港の際運上所に屬し明治四年石垣を改築して始めて完全なる波止場とは成れり目下は神戸税關に屬し關税に關係する貨物を載するものにあらざれば隨意出入することを得ず

外國棧橋　加納町神戸税關の東隣にあり加納町の棧橋と稱す外國船の來泊する所なるを以て外國棧橋とも云へり神戸棧橋株式會社の所有に屬し明治十七年中架設せしものなり鐵製にして長五百八十尺巾四十二尺ありて定繫船の數は左右各一艘なり其構造の宏大なること民設棧橋船橋等に卓絶するも外國より來航する船舶は孰も巨大なるものゝゝみなれば定繫船の數は反りて少し

瓦斯燈供給所　棧橋會社の東北舊生田川の西岸にあり地は加納町に屬す明治六年頃創設せし所にして某外國會社の所有に係れり居留地及海岸通一丁目近傍に供給せり

生田海　古書に生田村に屬すとも生田村、生田宮村の海をいふともあり又生田浦は脇濱より兵庫までをいふなるべしと記せしものあり浦すでに然らんには海も亦同じきこと論を待たず今は已に其名なし指す所さだかならざるも其近邊の古名なること疑なかるべし

後れては生田の海のかひもなし沈む水屑と共に成南　辨乳母

生田浦　ある所前に同じ

幾度か生田浦にたちかへり波に我身を打ぬらすらん　後撰集よみ人不知

立歸り濡ては乾ぬる汐なれば生田浦のさかと社見れ　同

津國のいく田の浦のいく度かわれ徒にゆき返るらん　六　よみ人不知帖

一かたに思歎けば如何にかは生田浦に身をもなく可　加茂重保

生田磯　生田社前の磯をいふと古書にあり今の居留地の海岸歟

波白む沖のはやてや強からし生田磯に寄るともふね　爲家

舊生田川　加納町なり元は布曳の瀧より苧溪川に合し西南に向ひ生田神社の東を流れし也續新古今集藤原基隆卿の歌に

津の國の生田の川の水上を今こそ見つれ布引の瀧」とあり夫木集藤原爲家卿も

水上の山の瀧津瀬氷るらし生田の川は行水もなし」とよまれたり大和物語に女の親の菟原男茅停男の二人にいひし詞の中に

此川にうきてさむらふ水鳥を射たまへそれを射あてたまふらん人にたてまつらん云々」とあるは是なりとぞ其他古歌舊詠等多し

明治四年開港の際水害の居留地に及ばんことを虞れ東南に一の川路を開き元の川床を埋めて道路と爲し其左右に家屋を作れり即ち今の加納町にして俗に瀧道とも呼へり

津の國の生田の川の幾度か君を戀しと我おもふらん　忠岑

津國の生田の川に鳥も居は身を限とや思ひなりなん　寂蓮

戀詫ぬたぬの丈夫なら無に生田の川に身をや投まし　通經

生田小野　葛合村の内元の小野新田をいふなるべし今はひとへに小野と

いへり若菜の名所なり其證歌は左の如し

たひ人の道妨に摘ものは生田の小野の若菜なりけり　師輔

問ね共たか爲とてか津の國の生田の小野に若菜摘蘭　經平

まくすはふ生田の小野の秋風にやかて色付袖の上哉　定家

攝津名所圖會は若菜の事につきて

中尾村の人生田浦より若菜を採て　禁中に献る七種の其一種也これを生田の若菜と呼ぶ、宇田天皇の御時より始るとかや中頃源平の兵亂に

より此式中絶しけり文明中本願寺蓮如上人此邊經回の時此舊例を申上再興ありて今も臘月二十五日には例年生田川の東の濱より一町程沖の方海低に生ふる若菜を中尾村の民之を採て同村の道場泉隆寺より京師六條東中筋花屋町神照寺に贈らる又此寺より鏡餅を添て本願寺御門跡へ進上す又こゝより　天子へ献らるゝ事にや生田の若菜は磯菜なるべし八重垣に曰く磯邊の若菜也十二種中に水雲あり海藻の類も磯菜ならんか」と記し名所記攝津志巡覽圖繪には生田濱の海藻を京師に献し生田の若菜と云よしを記せりかゝれば寛永、享保、寛政の頃は勿論享和年間までも此事ありしなるべきも近年は既に絶えたり但し巡覽圖繪には磯菜は藻也七くさの其一なりといふは誤なりと記せり

海軍造船所蹟　同村の内小野濱にあり明治十七年を以て政府より置かれし所にして二十八年に至り吳造船所に合併し建物を取毀てり軍艦赤城は當所にて作りしものなりといふ其他二十七八年の役には多く水雷艇を作

りて軍陣の需用に應せしとぞ

小野船渠　同上海軍造船所蹟の東に隣れり明治六年中加納何某氏の開鑿せし所にして後海軍造船所に屬せしを同所を廢せし後は縣有となり當港の船入場として保存する筈に取定められしと云ふ面積は波止石垣を併せて凡そ六万坪あり第二波止場以東の船入場にして最も風難を避くるに適せり

外國人墓地　同上小野船渠の西手にあり地域二千餘坪柵を四方に結びて區劃を立たりこは明治三年を以て設けし所にして土地は政府より貸與しものなりとぞ

八幡神社　同上外國人墓地の北にあり世に小野の八幡宮といふ祭神は應神天皇なることあらゆる八幡宮に異るなし當社は明治八年村社に列せられしに二十一年同村二宮神社に合祀し二十七年に至り復舊せしより今は無格社と成れり境内凡そ五百八十坪あり社殿は現今造營中に係れり

屠畜所　嵩合村の内小野の海濱にあり神戸屠畜株式會社の所有にして明治二十三年一月を以て開業せし所なり當所は他の依賴を受けて獸畜を屠殺することを業とし年々屠殺せし頭數は一万以上に及び現に明治二十九年中屠殺せしものを統計すれば牛八千四百九十頭半四百二十四頭、豚千三百五十四頭都合一万二百六十八頭にして平坪一ヶ月八百五十五頭强一日二十八頭强に當れり世に神戸牛の聲價あるは當所屠殺方の精巧なるもの與りて力ありと云ふ

雲中小學校　同村國道筋新生田川の西岸鞆柄橋の畔にあり市内公立の學校にして高等、尋常の両科を併設し外に分教場一個所を置けり嵩合部にある子弟の通學する所なり

神戸中學校　同村新生田川の西岸雲中小學校の北にあり明治二十九年を以て開設せし縣立學校にして縣内六中學の一なり

生田川　同村より海に瀉けり水源及開鑿の年代等は舊生田川の條に詳かなり舊川を距ること凡そ十町許東にあり新に開きたる川路なるより俗に新生田川と稱し猶略して新川ともいへり上流より流末に至るまで延長九百七十間幅員十二間あり石を河床に敷きて疏通の迅速なる樣作り做せり

製革所　同村新生田川の東にあり明治二十五年を以て開業せしものにして公稱馬力三十の蒸滊機關壹ヶ所を有し職工凡そ百人を使役す當所は熟皮株式會社の所有なり

天王塚　同村脇濱新國道の南手にあり面積凡そ六坪許頂上平坦にして古松一本生ひたり近き頃までは松下に神祠ありしと聞くも今はなし其由來は未だ詳ならず或は一里塚ならんともいへり攝津志には天王墓在二脇濱村一と記したれども荒墳の部に加へて且其由來を記さず昔より其名ありて其故を知るものなかりしに因るか

古塚　同所にあり一は天王塚の西に、一は舊西國街道の北にあり天王塚に近きものは塚上小笹生ひたり土人は處女塚なりと云ひ近刻の地圖にも

乙女塚とあり乙女は處女の誤なるべし處女塚は東明村にあること議論已に定りぬれば此説恐くは非なるべし舊西國街道の邊にあるものは松四五本生立ち下に稲荷の祠あり土人其因縁を知らず摂津志に和理塚畔塚在ニ脇濱村ニと記せしもの是なるべきか兩所とも考證未だ確ならず

法然松　同所民家の海濱にあり四方石垣を築き樹下に標石を立て其表に法然上人挿植松と題せり所傳に云ふ上人南鼠の時小松を此處に植ゑ我宗の隆なること此松の如くなるべしと誓はれたり其後大に繁茂せしに安永年間枯死せしかば其枯材を用ゐて上人の像を作り之を阿彌陀寺に寄付しその跡に今の松を植繼きしと

阿彌陀寺　同所法然松の此民家の裏手にあり栽松山と號す淨土宗なり本尊阿彌陀佛は聖德太子の作なりと云傳ふ承久二年僧法入の開く所に係れり法入は脇濱村の人松右衛門と稱せし者なり其頃法然上人南海下向の事あり錫を松右衛門の家にとゞめて補入を勸化し京に歸るに及びて再び脇濱に至りしに松右衛門は上人を已の家に迎へ剃髮して其徒弟となり我宅を以て精舍とせり是れ當寺の創始にして其後海上にて彌陀の靈像を得崇めて本尊と爲しゝより阿彌陀寺と稱し又上人植る所の松によそへて栽松山と號せしと云ふ目下境内百餘坪建物三棟佛堂一宇あり本堂の額面は朝鮮人何某の筆にして栽松山の三字を書せり

南宮八幡神社　同所民家の間新國道に沿ひたる所にあり建武三年八月の創立にして祭神は應神天皇社格は村社なり廣前に二基の石燈籠あり一は享保一は寛保年間の建立にかゝり共に百五十年以上を經たるものなり

德淸寺　同所阿彌陀寺の東にあり延德三年二月の創立にして開基は淨玄大和尚本尊は阿彌陀佛宗旨は眞宗本願寺派なり本堂に德淸寺の三字を書せし額あり筆者は阿彌陀寺栽松山額面に同し

八幡神社　同村筒井にあり明德四年二月を以て創立し明治六年八月村社に列せられたり祭神は　應神天皇にして目下境内三百七十坪本社の外神

祠二宇あり境外は樹木蓊鬱として杜を爲し老松古檜社殿の四方を圍めるなり

穀神さびたること近傍稀に見る所なり

春日野共葬墓地　同所の山手にあり元は筒井村の墓地なりしも昨今神戸及葺合の諸部落の死人を葬る者多しこは神戸城ケ口の共葬墓地を此地に移さんとする議あり近傍山林數十町歩を劃して其區域と定めたるに因るとかや

泉隆寺　同村中尾にあり眞宗本願寺派にして本尊は阿彌陀佛なり當時は弘長二年の創立に係り文明年間本願寺蓮如上人留錫の地と稱し寛政年間若菜の調貢に與りしことは生田小野の條に見ゆ近年多く菊を植へ諸人の看覽するに任せしことありしも住持の遷化せし爲め今は絶えたり目下境内三百六十坪あり本堂は茅葺にして昔さびたる色をあらはし大本堂の前に古松一株あり老幹繁枝庭の半を掩ふなど萬ふりて見ゆるところ六百數十年を經たる痕迹自然に分明なり

蓮如上人腰掛石　泉隆寺境内古松の下にあり石の高三尺許其傍に二基の碑あり一基は腰掛石の標石にして一基には左の和歌を刻せりこは蓮如上人の詠歌なりとぞ但し師輔卿の和歌をよみ改めたるもの歟

旅人の道さまたけは津の國の生田の浦の若菜なりけり

八幡神社　同村熊内にあり　應神天皇を祭れり境内地勢高く眺望最も佳く且木ぶかくしてその色頗るさびたり

瀧勝寺　同所八幡神社の北にあり布曳山と號す俗に瀧寺といふ地名も亦然り文武二年五月七日役行者の開きし所にして眞言宗に屬し本尊は馬頭觀音なり當寺は千有餘年の古刹なりしに明治二十二年同祿の災に罹り堂塔盡く烏有に歸し今はたゞ元の境内地二百三十餘坪と建物の一部を殘し纔に其名を繼ぐのみなり此處は布曳の瀧を距ること三町許寺内より同所に通ずる阪路あり山のかひより瀧の樹木を望むことを得るなり山號寺名之によりて起りしなるべし

布曳瀧　同村砂子山にあり源を六甲山の西北に發し此處に至りて雌雄の二瀧となり東北より來れる芋渓川に合して生田川の上流に瀉けり上にあるを雄瀧といひ下にあるを雌瀧といふ雄瀧の高二十四丈雌瀧は其三分一に止る形の布を垂るゝに似たるより布曳とは名けしとなり昔は雌瀧の下にも又一段の瀧あり摂津志にも

布曳瀑布高十丈餘、瀑東有二一小丘一、曰二望瀑臺一恰似二削作一、上流又有二雄瀧雌瀧等一皆可二以繪一惟至二布曳一地勝景偉、非二畫工所一能及一云々」とあり摂陽群談にはその記事なし名所記、名所圖會には二段と記せり土人は芋渓川と合する所即ち生田川の上流に瀧あり三十年許以前までは猶數丈の瀧なりしも年代の久しき川床漸次に淺く成り行き崖岸にも多少の變動あるを免れかたく又川路付換等の事あり其際より昔の形を失ひ今は名殘を丈餘の懸崖にとゞむるのみ望暴臺も其頃より要を失ひ又樋を架け道を開く者あり昔の形全く變せりともいへり如何にや當所は昔より名に聞ゑたる勝地にして古歌舊詠も少からず平清盛公、重盛公此處に遊びしことと平家物語、源平盛衰記等に見ゑたり新續古今集藤原基隆卿の歌に

津の國の生田の川の水上を今社見つれ布曳の瀧」とあり又夫木集九條内大臣の歌に

葦の家のいさなこ山の水上を登りて見れば布引の瀧」とあるは皆實地を踏みてよまれしものならん其外にも名ある人の此處に遊びしこと澤なるべし神戸開港の後は山を開き道を作りて往來に便ならしめ雌瀧の前には廻廊にかたどりたる橋を架し瀧を左に見て前岸にわたす所殊に趣あり其邊には一宇の觀音堂あり顔して布曳の觀音といふ續きて茶舗一軒あり看客の足を休むるによし雄瀧には一時茶舗割烹店等軒をならべその賑いはん方なかりしも年を經て漸次に衰へ今は然る名殘もとゞめず只茶舗一兩軒あるのみ然れども之が爲めに山靜に渓清くかへりて瀧の神趣をあらはし爽快昔にかはらざるにいたれり瀧の東手には二段の小阜歇ち上なる

は瀧を眼下に見下なるは正に瀧と相對す共に瀧を望むに適せり前に記せし茶舗割烹店のありしは專ら此邊にして今茶舗の殘れるも亦此處なり上の茶舗の入口には一基の碑あり賀茂季鷹翁の和歌一首を刻付たり其歌に曰く

分け入りし生田のをの〻拆もこゝにくたしや果む布曳の瀧

庭にもまた二基あり一基の歌は例の季鷹翁なり

たち縫はぬきぬにしあれと旅人のまつきて見るや布曳の瀧

一基には布曳坊とありて左の句を刻せり

すゝしさや島へかたふく夕日かけ　六條右大臣

此處より瀧寺に出る阪路ありむかしの本道は是なりといへり其間三町としるされたりさて此處の證歌は

水の色のたゝ白雲と見ゆる哉誰さらしけん布引の瀧　隆季

雲井よりつらぬきかゝる白玉を誰布引の瀧と云けん　京極摂政

山人の衣なるらし白妙の月にさらせる布ひきのたき　有家

久方のあまつ乙女の夏衣雲井にさらすぬのひきの瀧　定家

布引の瀧のしら糸夏くれは絶すそ人の山路たつぬる　爲家

水上は霧たちこめて見ゑぬとも音そ空なる布引の瀧　行家

水上は瀧の水尾にて早ければ布ひき川の末そ氷れる

妙見堂　加納町一丁目の北詰の上方にあり雌瀧の西手なる山頭に當れり山麓より登ること凡そ六七丁神戸兵庫はさらなり敏馬以東駒林以西さては淡路島山紀路和泉路に至るまで皆一望の裏に集り風景無双の處なり市街の北に華表あり其下に枝折の標石あり堂傍には寺院なし堂を守る僧庵あるのみなり

布曳温泉　加納町一丁目にあり舊生田川の埋地なり上方に布曳の瀧あるゆへ布曳の温泉と稱せり水質は鑛泉にして多く炭酸性分を含有するを以て之に浴すれば能く僂麻質斯子宮病等を治すると云ふ浴場は別幕上等並

等の三段に區別し又男女の二室に分てり其泉源は字姥ケ口にあり明治十八年を以て發見せしものにして同二十六年大坂試驗所の試驗を經たり其成蹟表に據れは

澄明無色無臭にして刺戟性の味を有し氣泡を發揚し放置すれば溷濁す攝氏十五度に於て一、〇〇五に居り其反應は酸性を呈すれども煮沸後は亞爾加里性に變す云々」とあり斯くて浴用飲用とも有効なる藥水と確定せしより來り飲浴する者日に多く今は壜詰と爲し他府縣に販賣するに至れり場外は一廓の市街と成り温泉旅舍を始め、茶舗割烹店其他の諸店軒をならべ市街の繁昌も大方ならず殊に温泉旅舍の内門樋、養保軒等最も名あり割烹店の中最も世に知られたるは富貴樓なり其の他猶あれども爰には誌さず但し入浴せんには必ずしも旅舍茶店等の紹介を要せず價を納れば隨意浴遊することを得るなり浴場の門内には一個所の噴泉場を設け價を拂はずして汲取に任す其邊にも茶亭數個所あり是等の人の休息する所と爲すも其休息するとせざるとは客の欲するとに〳〵なること固より云までもなし

温泉宜暖瀑泉涼、更看樓臺貯玉漿、笑殺當年浴沂客、未知　失名氏

神港有仙郷、

豈啻樓臺風物新、光景也適養天眞、山腰神井山頭瀑、洗却　仝

人間界裏塵、

川崎美術館　同町温泉場の上方川崎正藏氏の邸内にあり明治二十三年の建築に係り我國の美術品を陳列する所なり二階建にして下階を數室に區別す毎室凡そ四間四方あり其紙門は皆應擧の筆なり毎年夏季を以て陳列品の縱覽を許す其内探幽の筆寒山拾得二幅對、宋徽宗皇帝の筆花鳥圖、巨勢金岡の筆大幅佛畫の如き最も名あり其他書畫、器物、佛像等世に優れたるもの頗る多し

關帝廟　布曳温泉場の南にあり地は同町二丁目に屬せり蜀の五虎將軍

關羽字は雲長を祀る所にして明治二十一二年の頃居留清國人の建立せし所なり抑々將軍は義心金鐵の如く勇武群倫に絶し義を漢末に唱へて一世を懾動せしめたること彼國の歴史傳奇等の諸書に見るたり斯れば晉宋以下數代を經て其義を慕ふ者殊に多く遂に尊みて帝と稱し廟を作りて其靈を祀り今の清代に至りてもいよ〳〵衰ふることなく彼國諸所に關帝廟と稱するもありと云ふ今此廟も亦同一のものなるべし廟内には將軍の木像を安置し側に一宇の庵室あり廟に事へ香花の役を勤むること寺院の佛堂に於けるが如し廟庭は然のみ廣からざるも清淨にして蘚埃をとゞめず構内には多く桃を植たりこは彼の桃園に因みて取設けたるものならんか

二宮神社　葺合村の内生田にあり無格の神祠にして天忍穗耳命を祭る生田齋神の一なり明治二十一年以來近傍の諸神社を合祀し今は相殿に十一柱の祭神あるに至れり

生田里　同村元の生田村より下山手近傍元の生田宮村までの間をいひしなるべし古書には生田村を指し又生田村及生田宮村をも指せり二個村元は一村にしてすべて生田と稱せしに近古に至りて二個村に分れ開港の後は加納町其間を横斷し愈々隔絶するにいたりしにはあらざるか攝津志には生田を鄕の部に入れ方に廢せられて村存すと註せり鄕は「さと」と訓すやかて里と同義なり

稻葉吹風もことには身に寒き生田の里の秋の夕くれ　俊成

秋風に問はまし人の音信も生田のさとは冬枯にけり　爲家

生田森　生田の里の森をいふ古書は生田宮村を指せり生田神社の社地是なり今も祠前下山手通一丁目の路傍に一基の標石あり其表に生田森と題し其左側に左の一首を刻せり

秋風に又こそ訪はめ津の國の生田の森の春のあけぼの

こは　順德院の御製にして續古今集にも見るたり又史に生田爲二東門一、一谷爲二西門一」とあり俗曲にも生田森の合戰は云々とい

へるは並に此處なり昔は地域廣く其東手の如き生田川の岸にまで連りしも今はた〻社地のみとなり纔に古の名殘を留めり

君住はとはましものを津國の生田の杜の秋の初かせ　附清藤景德原脇都

時雨降生田の杜の紅葉のとはれんとてや色勝るらん　正よみ人不知葉

暗すて〻いつちいく田の時鳥名殘を留む森のした陰　行季

問ふ人も秋風までそ待れける生田の杜の雪のゆふ暮　俊成

闕置し生田の杜の秋風も萩葉よりや身にはしむらん

生田神社　生田森の内にあり元の生田宮村にして今は下山手通一丁目に鎮せり祭神は　稚日女尊にして延喜式内の大社歴世の御朱印地なり日本記に曰く

稚日女尊坐二于齋服殿一而織二神之御服一也、素盞嗚尊見レ之、則逆二剝斑駒一投二入殿之内一、稚日女尊乃驚而墮レ機、以二所レ持梭一傷レ體而神退矣」と

あり又同書　神功皇后征韓凱旋の條に曰く

船廻二旋海中一不レ能レ進乃還二務古水門一而卜レ之、椎日女尊誨二皇后一曰、吾欲レ居二活田長狹國一、因以二海上五十狹茅一祭レ之、」と是れ當社建立の始りにして皇后攝位三年春三月なりとそ但し活田は今の生田、稚日女尊は天照太神の御妹なり初めは生田川の上にありしを此處に移し奉りたりともいへり貞觀元年正月に至り從四位の下を授け同十年二月從三位を加へ奉りしと三代實錄に見えたり維新の後は縣社に列せられ明治十八年官幣小社に同二十九年官幣中社に進られたり古書に據るに享保年間は近隣十三個村共に祭事に與り寛政年間より享和年間までには二十四個村の產土神とすと記せしも今は神戸の過半に亙り二万一千餘戸の產土神と崇めまつるに至れり昔は祠前より海岸まで八町の馬場あり左右の土堤には櫻梅生茂り春時の觀殊に麗はしく秋は又霜葉の色めづらかなりしも開港の際樹を伐り土堤を崩し南は外國人の居留地となり北にも商家打つらなり今は已に名殘を留めず馬場前の海邊にありしと聞えたる華表神燈も亦

跡なく西國街道の邊にありし石造の華表のみは纔に斷礎をとゞめて路の側に殘れりこは時世變遷の然らしむる所に因るとはいへども一朝にして斯る勝地を失ひしこと惜みても猶餘ありと謂べし獨り中門以内は依然として昔日の形を崩さず現時本社以下建物十五棟あり境内五千餘坪には樹木鬱然として生茂り末社十四坐及數種の古蹟其間に散在し又境外には八社の齋神あり一宮より八宮に至る鎮坐の地皆神戸市内に屬せり

生田池　生田神社の境内にあり古書には生田村の東にあり一名里池といふ廣三百畝と記せり未だ孰か是なるを知らずもし古書に記する如くならんには今の葺合村の内生田の東にある神戸中學校の埋地是なるべし

津の國の生田の池のいく度かつらき心を吾そみす蘭　拾遺集　よみ人不知

問かしな生田の池の月影も森の秋風ふくにつけつゝ　俊成

あわれ也生田の池の菖蒲艸いかなる人の根に通ひ劍　爲家

たつねつゝ生田の池に玉藻かる袖より秋の露も置　範宗

月宿る生田の池の芦の葉にしも吹かぬる秋の風かな　唐光

箙の梅　同境内にあり壽永の戰に梶原景季主の箙にさし添たる名殘なりといひ傳へり盛衰記に

梶原源太景季は心の剛も人に道れすきたる道も優なりけり咲みたれたる梅か枝を箙に添へて指したりける」とあるは是なり俗曲に梅か枝といへる遊君の事をものしけるも又是に基きて作り倣せしとかや攝陽群談には

薩摩守忠度卿此梅を伐採り箙にさし旅宿の題の和歌を書たる短冊を付し古木なり」と記せり旅宿の花とは行暮ての一首を云なるべし然れども卿の家集には旅宿の花をよめるとありて題詠なるに似たりいかにや又名所圖會には紅梅の如く記したれども今の實地は然にあらず植繼なるべし抔云ものあれども果して然るや否を知らず

梶原井　同境内にある涸井をいふ壽永の役梶原景時主此井水をむすびて

武運を祈りしゆへ此名ありとぞ

敦盛萩　同境内にあり無官太夫敦盛卿の愛せられし萩なりといへり又卿は此萩によそへて和歌をよみ次郎直實主に贈りしとも云傳へり但し盛衰記平家物語等には須磨の浦にて討れし時始めて相會せし如く記したり和歌の贈答なぞ有へき筈なしこは單に之を愛せしといへる說可なるに似たり兵庫名所記には卿の遺子何某父の亡靈に對面せし處にて去る頃までは其故跡ありしと記せり名所記は寛永年間の成版なり

神功皇后釣竿竹　同境内にあり　皇后釣を垂れて戰の臧否を卜ひしこと史乘に見ゑたれども果して此竹なりしや否は未た考へず

生田公園　同境内一般をいふ明治六年當局の許可を受けて開設せし所にして之が爲め一層の風致を添ふるに至れり

生田山　生田社の北にありと古書に見ゑ或ひは生田宮村の上方又の名を大彌宜山といふとも記せり今北野町の後に生田山と稱する所あり是なるべし郭公の名所なりとぞ

時鳥生田のやまの七めぐり廻りゆくとも又も鳴なん　左内大臣

松永久秀城墟　生田山の南にあり彈正久秀主の居城せし蹟なりと云傳へり古書生田山の條に山中に城墟ありと記せしは是なるべし

天滿神社　北野町にあり菅原道眞公を祭る無格の神祠にして昔は土地の產上神と崇めたりしに近き頃產土は生田神社に變せしも土人の崇敬すること昔時に變らず抑々當社は福原遷都の際平清盛公の建立五條大納言國綱卿の勸請せしものにして同時に社傍の一村を開き村の名を北野と呼ばしめ山城國北野の天滿宮に擬へしとかや往時の宮居は兵火の燒く所となり今は境内地二百坪社殿以下二棟境内神社二宇あるのみ纔にそのかみの名殘をとゝむるに過ぎざれども社地は正しく境内なりとそ古書には和田岬より龍燈あがるよし申傳ふと見ゑたり

一宮神社　北野町地先にあり今は山本通一町目に屬せり無格の神祠にし

て田心姫命を祭れり生田齋神入諏の一なりとぞ名所圖會には今天滿天神と稱す北野村の名に因るかとあり然れども天滿神社の由緒は前に記するが如く且天滿神社の外一宮神社あり此說全く非なるべし巡覽圖繪は明に北野天神と記し其下に生田齋神の一なりと註せり生田の齋神に天神社ある筈なしいよ〳〵取得がたき說なり

炭酸泉　北野町天滿神社の西にあり細溪に沿ひたる岩石の間より噴出す其地は官有に屬し使用の許可を得たる者あるも繩に竹垣を結びて區域を立るのみ何人といへども隨意汲取る事を得べし其水質は凡そ布曳に同じく鐵氣を含有すること稍々稀薄なり或は云ふ其稀薄なる所かへりて度に適ひ其効能は他の諸泉に優れりと

城口共葬墓地　中山手通三丁目にあり俗に金王寺といふ元は近傍の諸村にありしを合併して此地に移し猶地域を擴めて共葬墓地と爲せり今は神戸部近傍の死者を葬る者多し

高直盛直主の墓碑　城ケ口共葬墓地内にあり河原兄弟の墓なり碑の高四尺許方形にして兄弟の名を連鐫せり平家物語には兄を太郎高直弟を次郎盛直と記し東鑑には弟を次郎忠家に作れり碑表鐫する所は平家物語に同じ元は三宮町の民家の間にありしを近き頃此處に移せしとぞ猶詳しくは三宮町墳墓舊蹟の條に記せり

諏訪山温泉　同通四丁目字諏訪山にあり浴湯の構造は凡そ布曳に同じく水質も亦相似たり主治効能は痛風、僂麻質斯、胃病、瘰癧等に効驗多し場内二基の碑あり一基には一六居士巖谷翁の文を刻し一基の文は長與衛生局長の撰む所なり居士の記中英人何某の語を載せて曰く

是鑛泉也、浴レ之服レ之、可ニ以蠲レ痼ニ延レ壽、云々」と局長の文にも大坂司藥場主治の語を載す曰く

炭酸也、服レ之浴レ之、治ニ腸胃及氣管ニ云々」と此地は海に臨み山を負ひ最も眺望に富み踏青納涼より觀月賞雪に至るまで四時一として佳ならさ

るなく且市街を距ること稍々遠くれのつから紅塵紫氛を隔て空氣また甚だ新鮮なり後邊には一帶の松林あり其幽靜愛すべし樹間海上を望む所最も佳なりさらに山頂に上れば兵庫以西須磨浦上に至るまですべて一望の裏にあつまり淡路島山は茅停海を隔てゝほのかなる等其景物にとめること筆紙の盡し得べきにあらず其外見るべきもの亦多し开は條を分けて記述すべし浴場内外には茶舖割烹店軒を並べ酒を呼び飯を喫する等咄嗟にして辨ぜずといふことなくわけて割烹店は旅舍を兼ぬるにより浴遊の爲め宿泊するも欲るまに〳〵求に應るを常とせり其最も名あるものを常盤といひ東中西の三店に分れ其外一力、吉田、伊村、常盤舍支店等數軒あり各樓れの〳〵長ずる所あるべし客も亦好む好まざるあり其よしあしは論うべくもあらず此頃又私立病院を開く者あり病を養ふにも甚だ便利なるには至れり抑々當地は元の名を前山と呼び近傍六ケ村の草山なりしを明治五六年の頃故關戸慶治氏購ひ得て更に前田又吉氏に貸し前田氏の

盡力によりて開き成せしところなり故に巖谷翁温泉の記中には又吉泉と稱し長與翁の碑銘にも誰成二此事一、里人前田、の句あり後故ありて政府の有に歸し再び神戸市の共有地となれり地域は初め一万四五千坪なりしも後又五千坪を增して區域を擴張し今は殆んど二万餘坪となれり

諏訪山頭夕日曛、且登高閣望氤氳、漁船看過茅洋去、一道殘煙作暮雲、

失名氏

諏訪神社　同所にあり山名の因て起る所歟祭神は武御名方命にして社格は村社なり境内に稻荷の祠あり故に諏訪山の稻荷とはいふ社地樹木深く境はた幽淸なり

諏訪山公園　同所諏訪神社境内にあり明治六年六月を以て開きし所にして其面積は九反八畝餘歩なり

金星觀測標柱　同所諏訪神社の前高阜の突出したる所にあり俗に金星臺といふこは佛國人何某の金星を觀測せし所にして標柱は前知縣神田主の

建る所也此邊眺望殊によく茶舗四面に點在し岸より崖に臨みて簀をかけわたし遊客の息を休むるに任せり

妙見堂　同所諏訪神社の西にあり堂傍寺あり山號を妙見山、寺名を法隆寺と云ふ境内廣きにあらざれども景色は金星臺近傍に讓らず下の方には一面の大池あり池畔より崖を削りて坂路を通ず又崖を傳ひて諏訪神社より金星臺に出る路あり

再度谷　同通五丁目に屬せり諏訪山の西にあり妙見堂の下にある池畔を北に折れて再度山大龍寺に到る坂路をいふ入口より上方に向ひ一町毎に標石を建つ其數十八あり路程も卽て十八町と知るべし道路は旋轉兀山の間を通じ又溪水の路に沿ひて流るゝあり此邊水車多く筧の水滾々として打ながるゝ抔頗る景致に富みたり

弘法瀧　再度谷麓の標石より三町許上方にあり之に浴すれば能く病を治むと古書に見えたり卽ち十六町の標石ある近邊なるべし今も稍々其跡に似たるものあれども瀧と稱するまでのものにあらずこは地形の變じたるが爲めならんか

糸櫻瀧　同所十七町標石の近傍にあり土人は櫻の瀧といへり道路より下の方に屬せり其深十五六間許岩石高低あり流水數條に分れてその間を過ぐ古書に瀧の水千筋に分れて糸櫻の如しとあるは此故なるべし

小屋塲　同所糸櫻瀧より一町許上方にあり赤松則實の陣屋の跡なりといへり今は尋常の禿山にして目標の據るべきものなし

中地藏　同所九町の標石ある所なり麓より大龍寺に到る半程なるを以て此名ありとぞ其傍に佛庵一宇及び不動明王の梵字を刻せし古碑一基あり

孰も大龍寺に屬すと云ふ

猩々池　同所四町の標石の上方にあり面積凡そ一反歩許水深くして四時絶ゆる時なし流れて數十丈の斷岸に瀉ぎ其下自ら飛泉となれりこは文化十二年六月より翌年八月に亘りて開鑿せしものにして當時は長六十五間

横三十八間深八丈あり其成に當りて郡代何某を請じ猩々曲を唄ひて饗應せしより猩々池の名ありとぞ池畔に碑あり詳かに其顛末を記せり

大龍寺　同所の極處にあり地名は元多々部山と稱せしを俗に再度山と呼び今は遂に地名となれり再度と稱するもの當寺の山號による也當寺は神護景雲二年和氣清麿公の艸創せし所にして初め摩尼山と號せり延暦年中弘法大師入唐の時登山して求法を祈り大同年中歸朝の時再度登山せしより再度山と號せしとぞ其後兵燹に罹りて堂塔盡く燒失し觀應二年赤松範公主再興せしも再び亂世となりて荒廢せしを寛文八年沙門寶祐再興の志願を起し化後賢正上人其志を繼ぎて堂舍を創立せり現今境内二千三百八十坪本堂庫裏以下四棟境内佛堂四宇あり本尊如意輪觀音は行基僧正一鐫三禮の像にして和氣公夢中得る所なりといへり中前立同尊は弘法大師の作前立同尊は小野篁卿の作不動堂の不動尊は弘法大師の作なり又奥院には弘法大師の像を安置し八十八個所の靈佛を祭れり大師堂近傍は景色頗る佳く更に後邊の頂上に登れば北は攝州の群山を望み南は茅停海をへだて紀泉の峻峰に對し眼下は神戸兵庫の市街より西の方駒林須磨等の田苑民家を瞰下し淡路島山さては播州の諸山に至るまで皆一望の裏に集る市内稀に有る所の景地たり

蛇谷　大龍寺の東南にある谷を云ふ昔弘法大師入唐の時船を海中に浮べしに障魔惡風を起して殆んど船を覆さんとせり是時大龍海上に現はれ大師の船を守護せしより無難に入唐して求法成就することを得たり歸帆の時もまた同樣の奇瑞あり大龍遂に此谷に入る大師は觀音大悲の冥助なりとて登山して法樂を捧げしに大龍又谷中に現はれたり是より此谷を呼びて蛇谷と稱せしとぞ寺名を大龍といふも亦此の因緣あるによるか

閼伽井　同寺奥院大師堂の左手にあり大師錫を當寺にとゞめ密法を修せし時清泉忽然として涌出せり此井是なり一に又加持の水とも稱せり

梵字石　同所閼伽井の左手にあり弘法大師の作りしものなりといへり巖

石に圓形を畫し其内に梵字五字を刻せりこは彌陀彌勒文殊普賢不動等の梵字なりとぞ古書には窟中にありと記したれども今は窟の外にあり

龜石　同所梵字石の奥一町許の所にあり一大巖石の上に龜趺を刻せり弘法大師の法を修せし所なりと云傳へり龜趺は大師の坐せし所にして後人の作りしものなりとぞ土人は御龜石と稱せり

弘法大師御杖櫻　同寺本堂の前にあり大師登山の時其杖を此處に拾たりしに漸く根をおろして繁茂せしとぞ今あるものは稚木なり古木は已に枯たりしに其根元より稚木生立今の如く生長せりと道人はいへり

多々部城墟　再度山の東南にあり觀應年中赤松滿祐主の嫡子信濃守則實主兄弟此處に據り又其以前には脇屋義助主も暫く籠城せしといふ地勢高峻にして群山を瞰下すること見孫の如しと古書に見えたり今指す所やゝさだかならず或は再度谷の入口宇治野村にありしとの説もあり

四宮神社　中山手通五丁目にあり市杵島姫命を祭る無格社にして生田裔神八前の一なり此地昔は中宮村といへり此神祠あるが爲めなるべし

山路城墟　同町近傍なるべし古書には中宮村を指せり中宮は中山手通五丁目近傍にして古老も城墟なりといへども今は其痕跡をとゞめず赤松則實主の居城せし所といふ但し多々部城も則實主の居城なりしといへり二個所共に其守る所なりしが攝陽群談には多々部脇屋義助主山路を赤松則實主の居城とせり巡覽圖繪は多々部の麓中宮村にありと記し或は中宮村多々部城なゞ記せしものあるは城主相同じきより一城と誤りしならん歟

武庫郡田中村にも同名の古城跡あり

兵庫縣師範學校　下山手通七丁目にあり元師範傳習所又神戸師範學校と稱し元町北長狹通等に置けり明治十年此處に移り十九年より今の如く改稱す

兵庫縣廳　同通四丁目にあり初め兵庫鎭臺と稱し後兵庫縣裁判所と改め遂に兵庫縣廳と改稱せり明治元年の頃兵庫切戸町にあり後湊町に又阪本

村今裁判所のある所に移り明治六年五月を以て此所に移れり

兵庫縣警察本部　兵庫縣廳の裏手にあり初め警察本局と稱し橘通今の商業學校のある所に置きしに明治二十年を以て此處に移し其後警察本部と改稱せり

兵庫縣會議事堂　兵庫縣警察本部の東手にあり明治十四年を以て建築せしものにして縣内代議士の會同して縣事を討議する所なり議場は八角形の二階建にして一觀さながら梵字の如し

神戸小學校　兵庫縣廳の南にあり地は北長狹通四丁目に屬し外に二個所の分教場を置けり神戸部子弟の通學する所にして高等尋常の二科を併設せり

花隈城址　花隈町の内にあり近き頃までは其跡分明なりしも今は知れずなれり永祿十年織田信長公の荒木村重主に命じて築かしめたる所にして天正三年の頃は荒木村正主の居城たり其後本願寺の軍將雑賀孫市主旗來の渡邊藤左衛門主等此城に籠りしを池田信輝主信長公の命を受けて攻落し在城の後遂に取毀ちて兵庫城を築きしとぞ

福德寺　同町にあり淨土宗にして本尊は十一面觀音なり當寺は建久二年の草創に係り目下本堂以下建物三棟境内四百餘坪佛堂一宇あり

善福寺　下山手通七丁目にあり天正年間敎祐大和尚の開く所にして敎祐大和尚は甲斐國守武田信虎主の四男信久主をいふ武門を去りて本願寺顯如上人の徒弟となり得道の後當寺を創建せしとぞ當寺は眞宗本願寺派本尊は阿彌陀如來なり

神戸病院　同町善福寺の西にあり明治二年の創立に係り當初は市内有志者の立る所なりしを今は改めて縣立と爲せり

神戸黴毒院　同町神戸病院の西手にあり初めは同病院の附屬たりしに今は分離して縣立と爲れり

傳染病室　同町神戸黴毒院の前にあり神戸病院の付屬にして傳染病患者

を置く所なり但し虎列刺病者に限り此處には置かず

長樂寺　中山手通七丁目にあり黄檗宗にして本尊は十一面觀音外に關帝天后聖母を祭れり元は河内國澁川郡布施村にあり　推古天皇の勅創所たり文化五年を以て再建し明治二十五年當初に移轉せり境内三百餘坪本堂以下建物二棟ありすべて唐土の風に擬したるを以て俗に南京寺と呼ぶ蓋し該宗の寺院には此類多し宇治の黄檗寺にて誰やらの云ひし句に

出て見ればこゝは日本か茶摘うた」とありては寺中にて日本の如く思はざりしとの心を云ふものなりとか

神戸測候所　同町字宇治野山にあり縣立にして明治二十九年十二月より開設せし所なり構内には警報信號柱を建て海上不穩又は海陸風雨等の虞ある時晝は赤球夜は紅燈を掲げ暴風暴雨の虞ある時晝は赤圓錐夜は紅燈二個を掲げて信號を爲すといふ

中華義莊　同町神戸測候所の西にあり清國人の屍を置く所なり世に南京

墓といふ同國人の死する者あれば假に此處に歛め年中數回本國に送るとなり故に義莊の名あるか但し此所に葬る者もありとぞ

中華會館　同通六丁目にあり明治二十六年清國人の建設せしものにして同國人の集會する所なり俗に南京倶樂部といふ構内に關帝の廟あり其壯宏なること市内稀に見る所なり關帝廟の事は布曳同廟の條に詳かなり

五宮神社　奥平野村にあり天穗日命を祭れり社格なしといへども生田裔神の一として人の尊み奉る御社なり

地藏院　同村にあり行基菩薩の開基に係り當時は華嚴宗なりしに凡そ五百年許以前實田和尚の世より禪宗に改め今は臨濟宗南禪寺派に屬せり本尊地藏菩薩は行基菩薩爪彫の尊像にして世に汗かき地藏と稱する靈佛なり世上凶事あらんとすれば尊像先づ汗に潰る故に汗かきの名ありとぞ境内には梅多く又一株の糸櫻あり幹老い枝榮えて殆ど寺庭を掩ふ早春梅笑ふ頃より仲春櫻ひらく時に至るまで騷人の杖を曳くもの少からず其堂塔

こそ昔の壯宏なるに似ざるもあれその名は世に聞えて隱れなくかくはしこと昔にかはらず

祥福寺　同村にあり臨濟宗南禪寺派にして本尊は釋迦佛なり貞享二年默傳大和尚の草創に係り目今境内地八百五十坪本堂庫裏境内寺院佛堂等十數棟あり伽藍壯宏にして參禪の僧毎日數十人に及ぶといふ寺庭地勢高く最も眺望に富み殊に寺背の經堂は巍々として山腹を壓し能く遠近の人目を惹き又糸櫻一もとあり地藏院の櫻と並べ稱せられ看花の客常に多し此花淡紅にして地藏院の花の純白なると色を異にし相映じて自然の趣を爲すも亦妙なり

祇園神社　同村字宮の前にあり素盞烏尊を祭れる村社なり境内凡そ百數十坪本社拜殿以下建物五棟境内神社四宇あり地勢高く石磴數十間打つゝき祠前には老松蓊鬱として生茂り風籟清くして頗る神さびたり祠後の山頭に上れば兵庫神戸の市街を瞰下すべく江山のながめはた尋常ならず近

傍無双の勝地なり

天王溪　祇園神社の西の溪を云ふ同社は元牛頭天王の祠と稱せしより溪の名におはせしとなり丹生の山田、有馬の湯山等に通ずる縣道にして溪ふかく流れ清く經る所の山水頗る風致に富みたり

湊山温泉　石井村湊山にあり又近傍を天王溪と稱するにより天王温泉ともいへり浴場の構造旅舍休息所等すべて布曳諏訪山の兩温泉場に同じ水質硫黄を含むにより胃腸漫性加答兒肝臟下腹充血生殖器病痛風等の諸症に特効ありと云ふ昔も此地に温泉ありしに中頃一たび廢絶し近年に至りて再び湧出せり古書に石井村湊川の側に温泉の故墟ありと記せしは廢絶せし間の事を知るべし當温泉は昔より豐太閤入浴の故蹟を稱し兵庫の民家に慶長元年温泉定件一章を藏する者あるよし古書に見えたりこは今の糀屋にして今井何某氏なりといふものあり如何にや今温泉場に瓢の徽章を用ゐ古くより業を執れる温泉宿を瓢亭を呼べるが如き猶そのかみの名

殘るといめり土地は神戸の西北に位し遠く田苑を隔てゝ兵庫をのぞみ東には湊川の潺緩たるあり今は神戸の市内に入りしも遙に市廛を斷隔し山靜に境清く市内温泉の中第一幽情多き所なり

大山咋神社　同所にあり大山咋命を祭れる村社にして社殿は二棟境内地に二百坪あり

豐國稻荷神社　同所にあり天正年間片桐且元主の勸請せしものにして元兵庫の市中にありしを明治七年一月を以て當所に遷せり祭神は稻倉魂命豐受大神豐國大神の三柱なり但し社格なし

監獄　同村にあり初めは橘通に置しを明治八年宇治野町に移し同二十四年又此處に移せり縣下五個所の監獄は皆當所にて管轄するとぞ

靈山寺　同村にあり淨土宗にして本尊は阿彌陀佛なり神龜元年行基菩薩の開きたる靈場なり

素盞烏神社　同村字天王にあり祭神の神祠の名に同し或書に素盞烏神社は一に牛頭又王又は祇園社ともいふとあれども別に祇園神社あるこそ前に記するごとく又敷地の村をも異にせりこは祭神同一なるより思ひ誤りしなるべし

千鳥瀧　同村烏原往還にあり即ち烏原川の流域に當れり古書には湊川の上流石井村にありと記せしもの多し烏原川は其上流なり巡覽圖繪には有馬道と記し牛頭天王の祠畔に圖せども今は然る跡あるを見ず又奥平野村祥福寺の東にも同名の瀧あり一說には奥平野の瀧より遙に北の山中にある瀧なりともいへり然れども古歌に

深山かと思ひ來ぬれは左はあらて千鳥の瀧に汐そ滿來る

石はしる千鳥の瀧に來て見れは旅行人のあとは見ぬけり

とあり奥平野と其北との瀧と爲さんには汐ぞ滿來る、旅行人などの句に適はず昔の湊川は流深かりしと聞ゆれば瀧の邊までも汐の上りしてそ無にしもあらざるべし又此地は烏原より丹生の山田を經て播州に出る道に

當り瀧より少し下の方には夢野より鵜越を越して三木に到る街道あれば旅人の往來せしことも疑なしこは此瀧を指す方慥なるに似たり但し奥平野の北にある瀧は高二十餘丈もあり飛泉岩石に觸れて四方に迸るさま千鳥の飛に似たり其形は寔に其名に適へり

願成寺　鳥原村住蓮阪の下鳥原川の左岸にあり上野山と號す本尊は阿彌陀佛にして宗旨は淨土に屬せり元住蓮阪にありしを數十年前此處に移せしとて當寺は天平年中の創立に係り開祖は行基菩薩中祖は住蓮坊なり福原遷都の際同都五山の第二に置かれ平家滅亡の後は三位通盛卿夫婦の菩提所と成り其後あまたの沿革あり傳て今日に至れり

越前三位平通盛卿塔　同村願成寺境内にあり高五尺許の五輪の塔にして三基の内中央の大なるもの是なり古書には當寺に小宰相局の塔あることを記せしもの多けれども卿の塔を記せしものあるを見ず然れども寺記の示す所明瞭なれば固より疑あることなし但し攝陽群談には卿の塔菟原郡住吉村願成寺境内にあり小宰相局の塔を相並べりと記せり郡村は異なれども當寺なるに似たり如何にや又當時の住職住蓮坊は元平家の侍なりしに因り其由緣にて卿の菩提を吊ひしこそ諸書に見えたり

小宰相局塔　同境内通盛卿塔の左にあり局は通盛卿の室刑部卿藤原範賢公の女なり壽永三年二月十四日卿の一の谷にて討れしを歎き身を海中に投げて空く成れり史に

通盛妻聞二其夫死一投レ海死、云々」とあるは是なり住蓮坊ふかく局の死を憐み卿と同しく石塔を建て其菩提を吊へり當時乳母吳服の刀自より送屆けし局の持念佛地藏菩薩の尊像は今猶當寺にありしとぞ

乳母吳服塔　同境内通盛卿塔の右にあり刀自は佐度成經主の妻にして夫身まかりし後小宰相局に仕へて乳母となりし人なり局失ける後其遺物を齎らして當寺に來り局の冥福を祈りしこと寺記に見えたり此塔は刀自菩提の爲めに建る所なりといふ

住蓮阪　烏原村より石井村と夢野村との間に出る阪路をいふ地勢高くして眺望頗るよし元願成寺のありし所にして該寺は住蓮坊の開きし所なるを以て此名ありとぞ

住蓮坊墓　同村住蓮坊の東にあり高六尺許なる五輪の塔を建て一間四方の堂宇をしつらひたり住蓮坊は元平家の侍にして伊賀四郎左衛門清原信國と稱せし人なり法然上人の徒弟と爲り願成寺を中興して其住持と爲りしに　後鳥羽院の御宇松兒、鈴兒兩姫發心の事に與りしが爲め江川馬淵原にて死罪に行はれたり此墓は其首を葬りたる所なりとぞ此事古書に見ざれども寺説に據るなり其跡分明たり或は云ふ當村は元上野村と稱せしに住蓮坊の首此處に飛來り群烏四方を圍みて悲鳴せし爲め始めて人の知る所と爲り遂に村の名を烏原とは呼かへし也と

夢野　夢野村なり或は古名を刀我野、菟餓野又門鷄野とも呼へり鹿の名所にして氷室の始りし地なりとぞ昔牡鹿あり夢に背上一莖の草を生し又

數點の雪を負ふと見たり牝鹿謂らく草を生するは箭の身を貫くの祥雪を負ふは盛宍に塗の祥なり吾に從ひて他の耦を求むること勿れと牡鹿聽かず箭に中りて死す俗に刀我野の鹿も占夢に任すへしといへるは是なり云々夢野と稱するは此夢に因みてなるべし又辟阪忍熊の二王菟餓野に狩して事の成敗を卜はれし事　仁德天皇の御時　額田大中ッ彦皇子の門鷄野に狩して氷室を見賜ひし事　仁德天皇高臺にゐまして菟餓野の鹿鳴を聞賜ひし事等日本紀に見えたり古書多くは夢野村を指せり一説には此夢野は此地にあらず雄伴郡の夢野にして大阪城の東大友村の邊なるべしともいひ又　額田大中ッ彦皇子は高津宮にゐまし〻に十餘里を隔て此地まで遊獵に出賜ふことなし此處の鹿鳴の高津の宮まで聞ゆる筈もあるべからずこは大友村近傍といへる方慥なるに似たりともいへり然れども夫木集左近中將公衡卿の歌に

水門川浮寢の床に今宵こそ秋をつけ野の鹿も鳴なれ」とあり高津の宮

に近き所の鹿の音を湊川の泊舟にて聞くも不可思儀なり但し此歌鹿によりて故事をよみ合せたるまゝにて實地の如何には拘らざるものにや其他諸説猶多けれども區々にして取定めがたし今はたゞ聞けるまゝを書付るのみ

夜を殘す寢ざめに聞ぞ哀なる夢野の鹿も斯や鳴らん　西行

あわせてや忌と詫らん烏羽玉の夢野の鹿の諸聲に鳴　鴨長明

月影を置霜かとや思ふらんつけの〻鹿の聲ぞ恨める　源師光

押照や津々の堀江に船とめてつけ野の鹿の聲を聞哉　淨忍法師

氷室神社　夢野村字北垣内にある村社にして　仁德天皇をいつきまつれり境内に辨天の祠あり古書に辨天祠は土人氷室の社と稱すとあるは是なるべし此地一に門鷄野と稱すること前の條に記せしが如し門鷄野は氷室の濫觴なり

門鷄の村に大山守が納たる氷室は今も絶せざりけり　よみ人知不

古の門鷄野の御符それよりや氷室のれものたち初劍　中務卿親子皇

夢野清水　同村氷室神社の境内にあり一に陣場の井とも呼べり所傳に云ふ此地は能登守敎經卿の陣所の跡なるより井の名にふはせしなりとぞ昔は此水を汲みて温泉と爲し氷室の湯と稱し諸人をして入浴せしめたること名所巡覽両圖繪に見えたり斯れば寛政年間より享和の頃まで其事ありしに相違なきも何時の頃より廢絶せしにや今は然る跡ものこさずたゞ祠畔に一個の古井をとゞむるのみ

傳染病死者火葬所　懷下山にあり明治十二年中神戸市より設置せしものにして諸般傳染病の爲めに死せし者を火葬する所なり

東山避病院　懷下山の東にあり地名もやがて東山といふ六種傳染病に罹りし者を入るゝ所にて是も亦神戸市の營造に係れり

瀧川燐寸製造所　中道通二丁目にあり瀧川辨三氏の所有に係り外にも同製造所二個所あり湊町にあるを清隧社といひ葺合村にあるを東華館とい

ふ三個所の職工人員は男百六十八人女六百八十四人總計八百五十二人なり

兵庫停車場　西柳原町にあり山陽鐵道線に屬する第一次の停車場にして兵庫の西部長田尻池駒林等に往來するものは此處より出入するを便利なりとす

山陽鐵道會社　兵庫停車場の北にあり明治十九年を以て開設する所にして初は北長狹通に設置せしを同二十年十二月を以て此處に移せしなり目下構内停車場を併せて三万五千坪あり其南には付屬工場一個所を置き鐵道用諸車諸機械器具等を製造せり同所に於て日々使役する所の諸職工は概數六百人又蒸氣機關二個石油機關一個を備付たり

柳原町　兵庫の西部にあり西國街道の入口に當れり往古は一面の野原にして柳の大樹あり故に柳原と呼び市街と成るも依然として柳原町と稱し今は分れて東柳原西柳原の二個町となれり商家最も多き所は元の西國街道にして引續きて之の旅籠町湊町等あり其賑ひいはん方なくわけて六七十年以前佐比江町の花街を移せしより更に一層の繁華を添へ花街は神戸開港の後福原町の隣地に移り今の稻荷新地を開くに至りしも藝妓は多く此地に留り現に二個所の撿番あり一を中撿番一を淀撿番と云ふ藉を此間に掲ぐる者惣數八十六人あり自ら柳原藝妓を以て人に誇り人も亦許して兵神兩港中第一位に推すと云ふ近傍には茶屋料理店多く妓家も亦少からず其他普通の商家軒をつらね賣買日にまさりて繁昌する等兵庫地方第一の良市街なり

福昌寺　西柳原町にあり本尊は釋迦如來脇立は文殊普賢の両菩薩なり天保十年十二月覺巖實明和尚の草庵を結び私に般若林と稱へし所にして慶應三年十二月より福昌寺と公稱せしとぞ境内地千百七十坪本堂以下五棟境内佛堂五宇を有し兵庫新橋通國道の北手にある曹洞宗の大寺なり

苦樂松翁墓　福昌寺境内本堂の前にあり松翁は通稱を松右衛門といふ明

石の人にして松右衛門帆の元祖なり嘗て當寺の檀徒何某の家に寓居せしことありその因によりて建る所なりといふ但し屍を葬たる所にはあらざるべし

福海寺　西柳原町にあり大光山と號す臨濟宗南禪寺派にして本尊は釋迦如來脇立は文殊菩薩、普賢菩薩なり康永年中足利尊氏公の草創する所に係り今本堂の前にある福海興國禪寺の額面は公の自書せしものなり其後三代將軍足利義滿公も手づから山寺の號を書して寄付せられしとぞ傳へ云ふ建武三年尊氏公西國沒落の時追兵の迫る所となり觀音菩薩の堂下に匿れて一命を全くせしより天下一統の後伽藍を建立し菩薩の尊像を安置せしと今も境内に觀音堂あり堂内の佛像是なるべし目下境内地七百餘坪本堂以下建物五棟境内佛堂二宇あり寶物の内前記の二額弘法大師作十一面觀音毘沙門天の木像當寺二世禪師作尊氏公の木像等最も世にあらはると云ふ

蛭子神社　西柳原町福海寺の南にあり祭神は　蛭子命にして村社格なり境内九十八坪本社拜殿及其外神祠二宇あり年々一月十日參拜する者群を爲すといふ

二本松營　西柳原町福海寺の西二町許に古跡ありと古書に見えたれども今は指す所詳ならず新田義貞公の陣せし所と云傳へり

福嚴寺　門口町にあり巨鼇山と號す臨濟宗南禪寺派なり本尊釋迦佛は佛殿に十一面觀音は方丈に安置せり所傳に云ふ昔柳原に木下何某といふ者あり其家貧しけれども常に大悲を信仰し普門品を誦して怠ること無かりしに或時異僧來りて一夜を宿し其奇特によりて家富み族榮ゑ又夢中に大悲の尊像を得たるより渴仰いよ〳〵厚く伽藍を建立せん爲め船を九州に下して多くの良材を積上ぜしに和田御崎に至りて惡風に遭ひ材船悉く海底に沈めり時に巨鼇あり既に沈みたる材船を負上ければ難なく伽藍を建立して彼の尊像を安置せり故に巨鼇山と號するなりと但し其時の開山は

佛燈國師なり其後　後醍醐天皇隱岐國より還幸の時當寺に　龍駕を駐め賜ひ又四海一統の御祈禱あり中頃兵火の燒く所となり堂塔一時に烏有に歸し再び建立せしも昔の如く壯大ならず今は建物四棟佛堂一宇あり境内地は凡そ一千坪に餘れり

蒼官護國松　福嚴寺境内にあり標して蒼官護國といふこは　後醍醐天皇の龍駕を駐め賜ひし時乘御の御駒を繫ぎて憩はせられし松なりとぞ今は幹老ひ枝榮えて寺庭を掩ひ其下に方四間許の玉垣を結べり土人は敬ひて神木なりとし參詣する者少からず祈る所あれば必ず應驗ありと云ふ又數年以前近火ありて殆ど堂塔に延燒せんとせし時白蛇樹梢に立現れ氣を吐き風をかへして類燒を免るゝことを得たりともいへり

久遠寺　三川口町にあり俗に濱の寺と稱す日蓮宗八品派にして本尊は中央題目左釋迦佛右多寶佛なり貞和三年の創立享德二年の中興に係れりそのかみは伽藍宏壯にして近年までも佛堂坊舍等殘るもの多かりしも明治

二十三年回祿の災あり堂塔悉く燒失し今あるものは近年新に建立せし所にして本堂庫裏等建物七棟境内地一千坪のみ或は云ふ當寺を濱の寺と稱するは兵庫築港以前の海濱なりし故なりと然れども兵庫の築港は應保年間に屬し當寺の創立は其後にかゝれり年代符合せざれば築港以前の寺にあらざること疑なし恐くば元海濱なりし地に建立せし故此名あるならん此地海濱なりしことは證據ありて明かなり

征清軍人忠魂碑　同町久遠寺の北隣にあり元同寺塔中何某寺の跡なりと云ふ明治二十七八年の役に戰死せし軍人の靈魂を招く所にして碑の文は周布知縣の筆なり

範國寺　同町にあり永和二年の建立にして本尊は釋迦如來宗派は臨濟宗南禪寺派なり

愛宕神社　同町にあり火産靈神を祭る所にして明治六年八月村社に列せられたり目下社殿拜殿各一棟境内神社二宇境内地百餘坪あり

兵庫小學校　永澤町にあり神戸市立にして高等尋常二科を併設し又外に分教場四個所あり兵庫地方の子弟を教授する所なり

嚴島神社　同町にあり祭神は　市杵島姫命なり治承年中平清盛公の建立せし所にして維新の後村社に列せられたり境内凡そ五百坪許古松森然として社殿の四方に繁茂せり

龍燈松　嚴島神社境内にあり今は枯木となりしを七五三繩を引き柵を結ひ且雨覆を加へたり所傳に云ふ文政九年五月五日樹梢に燈火あり煌々として四邊を照す人々仰ぎ見て怪ざるものなし時に海邊より來る者多し相傳へて云ふ今海中燈光あり海を出て〻泊船の檣頭に昇り空を飛びて此樹梢に止れりと是より先清盛も當社を造營して遷宮の式を行ふにあたり燈火忽ち一の樹梢に現るゝを龍神の献燈なりとの神託あり其松枯れし後又一松樹の上にあらはるゝこと前の如し其松も又已に枯れ今又三度の奇瑞あり是より土人の之を崇むること神の如く今も猶參拜する者鮮からず也

理教院　同町にあり元は播州明石郡多聞村にありしを明治十五年此地に移せしといふ當寺は貞觀八年の創立にして宗旨は天台本尊は阿彌陀佛なり

明治社燐寸製造所　湊町にあり外に大開通にも分工場一個所を置けり持主は本多義知氏にして職工男七十四人女三百三十九人都合四百十三人を使役せり

新橋　湊町より多聞通に濟る橋梁にして湊川に架設せるものなり此處は西國街道の往還に當るにより日夜車馬の往來多し

湊川遊園地　新橋より湊橋に至るまでの間にある湊川の堤防を云ふこは明治十四年を以て開設せしものにして今は神戸市の營造物に屬せり堤上地面廣く樹木生茂り四時それ〻のながめありわけて老松の蒼然たる昔の俤を殘し又近き頃櫻木幾千本かを植付し風流雅ありとぞ生たち花の咲

出たらんにはいかに愛たからんと推測られたり殊に盛夏の頃は納涼の客引も切らず夜もすがら松の下露に立ぬれて晝の暑さを忘るゝ者も多しとかや斯れば其邊に簀の子を張り或は露店をかけ氷さては酒などを賣る者多く遂には新橋以北湊橋以南にまで立つゝき宛然市街の如き模樣をあらはしその賑はしきこと限なきに至れり

湊橋 新橋の南にあり同じく湊川に架設するものなり兵庫と中町との接續する所にして元の西國街道に屬し往來の賑はしきことは新橋に讓らず

湊町 湊橋以西の市街をいふ引つゞきて戸波仲町等あり右の方柳原町に接せり此地は元の西國街道にして兵庫驛の東口に當り町の北に驛の總門あり人馬の輻湊せし所なり今は縣道に組入られしも繁華は尚そのかみに減せず殊に中町部の開けし爲め東は相生町より元町につらなり銀行會社其外の商店多く兵庫地方稀に見る所の大馬頭たり

八幡神社 湊町にあり祭神は應神天皇にして明治六年村社格に列せられたり境内地二百餘坪本社拜殿以下三棟境内神社二宇あり

藤之寺 江川町にあり一名迎接院とも稱す文安四年の創立に係り淨土宗にして本尊は阿彌陀佛なり境内一株の藤あり蔓延して架棚六七間にわたり晩春のながめ殊にうるはしく騷人の杖を曳くもの少なからず目下境内地は八百餘坪本堂以下建物三棟あり

極樂寺 同町にあり天正元年の創立にして現今本堂以下五棟境内地百三十坪あり本尊は阿彌陀如來宗旨は淨土なり

惠林寺 同町にあり臨濟宗南禪寺派本尊阿彌陀佛にして目下境内地二百九十坪本堂庫裏各一棟あり貞和六年の創立に係れり

長傳寺 西宮内町にあり本尊阿彌陀佛淨土宗なり元祿二年の中興にして創立の年代詳ならず今は境内地四百坪本堂以下佛堂庫裏等七棟あり

法界寺 同町にあり天正四年の創立にして境内地百七十坪本堂以下建物三棟を有す本尊は阿彌陀佛宗旨は淨土なり

西幸寺　同町にあり眞宗本願寺派本尊阿彌陀如來なり建武二年の創立に係り今は本堂以下建物三棟境内地二百五十坪を有せり

濟鱗寺　同町にあり慈光山と號す明應二年の創立にして境内地百餘坪本堂以下三棟あり本尊は阿彌陀如來宗旨は淨土に屬せり

金光寺　西仲町にあり眞言宗に屬し本尊は藥師如來なり承安三年の創立寛文九年の中興にして今は境内地四百五十坪本堂庫裏境内佛堂等八宇あり

戸波警察署　戸場町にあり元は兵庫警察署の分署なりしを明治二十九年より獨立の警察署と爲せり其管轄する所は兵庫の一部及武庫郡山田須磨の兩村なり

兵庫郵便電信支局　小物屋町にあり神戸郵便電信局の支局にして其取扱ふ事件は局名に同じ

兵庫電話所　兵庫郵便電信支局の内に併設せり其年代は明治二十六年に

して廣く公衆の依賴に應ず

平重盛卿故墟　宮前町稻荷の祠の側にあり方四尺許の石垣を築き其上に矢來を結べりこは公の寓居せし屋敷地の名殘なりとぞ

七宮神社　北宮内町にあり　大貴己命を祭る相殿は　大日孎貴命天兒屋根命なり昔より兵庫北濱の産土神にして今も多くの氏子あり生田裔神の一なりと云へども祭神の上に疑なき能はず或は七大明神の神號あるが爲なり　又清盛公以下平氏七盛の崇敬する所なりし故なりともいへり如何にや創立の年代は未だ考へざれども應保年中福原遷都の際清盛公當社に祈る所あり七大明神の神號を書して奉納し天正年間には　正親町天皇より七宮大明神の勅額に三種神寶の圖を添へて寄付し賜ひし事ある等古くより神號の世上に傳はりしを知るに足るべし其後慶長年間國の守護職片桐市正主大久保石見守主等の敬信殊に篤く社殿造營の材木太刀避邪等を獻納し維新後は御室御所仁和寺宮の祈願所と爲り御輿御衣慢幕唐櫃等

を納められ材木太刀の外は皆傳はりて寶庫に藏す其外の寶物は枚擧するに遑あらず社格は明治何がしの年村社に列せられ鄉社を經て縣社に進められ今も猶其社格にあり社殿は明治二十二年同祿の災に罹り大半烏有に歸したりしを近年新に本社以下七棟を造營し五棟に修繕を加へ今は其數十二棟と爲れり目下境内八百七十坪あり樹木未だ繁茂せざるにより昔さびたる所は無きものから到る處一點の麓埃をとゞめず兵庫地方第一の名社なり

影向松　七宮神社境内にあり往古神影の現はれし所にして其事跡を遺さんが爲め植置しもの也といへり四方玉垣を結び影向松と書したる標札を建たり古木は已に枯たれども猶枯幹をのこし傍に一本の新松生立てり此處は元宮居のありし所なりと云ふ

佐比江　佐比江町近傍の地なるべし後撰集忠岑の歌に

年を經て濁だにせぬ佐比江には玉藻かへして今もすむべき」とあるは

此處をよみしなりとぞ應保年間筑島の成就せしより引つゞきて市街と爲りしも町の名は舊に依りて佐比江と呼び傳へて今日には至りしなり此地は昔の花街にして酒樓娼家等軒をつらね日夜歌吹の聲を絶たず且當時の西國街道に接近し加も上方よりの入口に當りしより旅人の當地を過ぐるもの此處に遊びて派手を競ふ等其賑ひ云はん方なし

兵庫髻紅れしろいの花の顏さび江といへど日々にあたらし」と口吟みし者ありしは寛政年間の事なり其後花街は今の柳原町に移り市街の模樣一變し六七十年以來は常人の住む所となれり因に記す當地の盛なりし頃は其位を大阪の島内と同じくし兩所相依りて藝妓の置替を爲しゝ事あり當時磯町、湊通、土堤下、逆瀨川町眞光寺前等に娼家ありしも皆大に其位を下し當地の繁する所にあらざりしと云ふ

船繋石　佐比江町にあり七宮神社の北に當れる溝渠の側にのこれり元は溝渠の中に立ちたりしを浚渫の際誤りて折損せしと云ふ幅六寸許なる石

標にして其表に北濱船入川とあり其より下は折損して形をとゝめず猶船
石の三字ありしとぞ往古は此邊を菖蒲淵と稱し廻船等の出入あり此處
に泊船を繫ぎしより此名ありとかや然れども舊記等の考證に資するもの
なく只此石を留むるのみなり或は佐比江の遺物なり杯云もあれども明か
に北濱と刻せり北濱の後は佐比江ある筈なし此説恐くは非ならん但し此
地は卽ち北濱にして東に入江と稱する字あり所謂船入川は此處まで通せ
しにはあらざるか

猿田彦神社　佐比江町にあり七宮神社の北手に當れり村社にして猿田彦
命を祭る所なり

若狹守平經俊卿墓　西出町稻荷神社の側にあり高五尺許の五輪の塔
なり四方木柵を結ひ柵の外に標石あり題して平經俊墓と云經俊卿は淸盛
公の弟修理太夫經盛卿の次男にして但馬守經正卿の弟無官太夫敦盛卿の
兄なり壽永三年二月七日戰死せしと東鑑盛衰記等に見えたり古書には
佐比江堤にありと記せり佐比江堤は湊川の內堤防にして夙に民家と成れ
り今の處は元の堤敷なるべし

日向神社　西出町にあり明治十三年播州加古郡大野村日岡神社の分靈を
勸請せしものにして祭神は　天伊佐々比古命相殿は　天照大神、鵜茅葺
不合命、豐玉比賣命、市杵島姬命なり現時境內百五十二坪本社拜殿社務所
等あり但し社格は無社格なり

兵庫石炭庫　京出町の海岸にあり海軍省の管轄に屬し同省所用の石炭を
貯藏する所なり

砲臺跡　東出町の海岸兵庫石炭庫の東手にあり其地湊川尻に屬するを以
て湊川の砲臺と稱せり和田岬の砲臺と同時に成りしものにして詳くは同
砲臺の條にあり明治二十五年火災に罹りて內部を燒盡され遂に側石を解
除し今は纔に其跡をのこすのみ

湊川　東出町の左手より海に入る其水源は武庫郡藍那、同郡小部、同郡

西小部の三ヶ所に發し石井村より兵庫部と中町部との間を流れて此處に至れり上古は石井村より懐下山の麓を流れ兵庫の西より海に瀉きしを福原遷都の際洪水の害あらんことを虞れ今の如く改鑿せしと云傳へり建武三年楠公の足利氏の大軍と戰ひ遂に討死せしことろなり梁川星巖翁の詩に

猶是湊川橋下水、寒聲咽切哭二忠臣一の句あるは是なり又野田笛浦も湊川懐古の詩中

熱血灑レ沙凝不レ散、染成紅蓼滿川秋」とはいへり其外種々あれども煩に堪ざれば今之を略す開港の頃までは兵庫の市街も此川を限とし東は一つらの野原なりしに今は市街開けつゝき神戸市内の中央となり彼此の間を隔絶して往來にも便ならざれば其流を元の山麓に復し今の川床を市街と爲さまく已に目論見を爲す者ありとぞ未だ土功を起すには至らざるも遠からずして川身の變更を見るに至るへし此川は平素一滴の流水なく近き頃までは街道に橋梁をも設けざりしほどなれども一度霖雨打つゝき流水岸に漲るに至りては澎湃として堤坊を破り人を流し家を漂すこと屢々あり未た此に至らざるも濁流滔々として海に濺き海上數里變して黄色となること常の如し故に夫木集爲相主の歌にも

湊川うは波早くかつこへて汐まで濁る五月雨の頃」とはいへり其他此所の證歌は左の如し

湊川浮寢の床に聞ゆなり生田の奥の狹雄しかのこゑ　範兼

水門川夜舟こき來る追風に鹿の聲さへせと渡るなり　道因

みなと川秋行水の色そこき殘る山なく時雨降るらし　内大臣

湊川夏の行くとは知らねども流て早き瀬々の結して　順德院

湊江　湊川の末流をいふと古書に見えたり又兵庫の津に入る水門なりとも記せり

夕立のまた過やらぬ湊江の芦の葉そよく風の涼しさ　時親

兵庫津　島上町近傍より東西の海岸を始めとし兵庫部全市街の古名なるべし昔は船舶の集る所を津と稱せり涙速の津堺の津の類なり其兵庫と呼ぶものは兵庫ありし地なるに因るとそ兵庫とは日本書紀　孝德天皇の紀に

大化元年於二閼曠之所一起二造兵庫一收二聚國郡刀甲弓矢一」とある是なり

上古は西北の山手にある漁村なりしに築島成就して市街開け天正年間より諸船入津賣買繁昌の地となりしといふ猶詳くは發端に論せり近古船舶の輻湊せしは今の島上町以北にして其海岸には廻船問屋の類多く又此處より大阪に渡海する早船を出せり當時俳人斑竹宗匠の句に

すゝしさやつひ大さかへ一はしり」とあり又賴山陽翁の播州途上の詩にも

歌神祠外起二曉煙一、舞妓灣頭酒如レ泉、借問行人有二何急一、欲レ乘兵庫一番船」と吟せり往來の旅客多くは此便に依りしとかや今も此邊に早船と記せし標幟を出したる家あり又毎日數回漁船の往復するものある等乘客貨物の集ること昔時にかはらず其賑ひは神戸の海岸にもゆづらざる模樣あり

武庫水門　武庫泊亦同し兵庫の津なりとも又武庫郡武庫莊に屬すともいへり武庫の字義兵庫に近き故此名ある歟日本書紀　神功皇后の記には

皇后之船廻二於海中一不レ能レ進更還二務古水門一而トレ之」とあり兵庫の名は兵庫を作りしに始まるといへること前の條にあり其之を作りしは大化元年にして其前より武庫の名ありしことは疑なし風雅集に

漕出てゝ武庫の浦より見わたせは波間に浮ぶ住吉の松　行平

夫木集に

霧晴て猪名野を行は武庫の島月をそ見つる宿は無して　信實

などありては武庫莊に屬すといふ說たしかなるに似たり今も武庫郡に武庫村あり

船橋　島上町の海岸にあり波止場より棧橋を架け其末四段の船橋をつなげり總て幅員三間延長六十間あり其左右には小蒸滊船三艘つゝを繫くことを得へし當船橋は明治二十二年八月を以て成就せしものにして船橋株式會社の所有たり當港より德島洲本阪越等に往來する諸滊船の繫泊するあなり

大坂商船會社支店　島上町船橋會社の近傍にあり同社所有其他船舶の乘客積荷等を取扱ふ所なり

築島　島上町來迎寺近傍の地とも又三川口濱寺近傍より東南の地一切なりともいへり後の說慥なるへし應保年間平淸盛公の築く所にして元の名は經島なりしを何時の頃よりか築島と呼びならはし今は其名を以て世に知らるゝに至れり抑々公の此地を築きしは久しく遷都の下心あり先此處を築きて船舶風波の難を除き大に海運の便を開き且其地域を擴めんと欲するにあり時に應保元年二月上旬大に畿內の課役を起し人夫五万人を促

して盤打山を崩し海面三十餘町を築出すこと再度なりしに其成らんとするに際すれば忽ち大風怒濤を起し纔に一夜のほゞにして數日の土功を奪去られ海水滔々昨日の痕跡たに留めざるに至りけるにそ時の陰陽博士阿陪泰氏主は海神の崇なりと爲し海中に三十の人柱を入れ且一切經を書寫せし石を沈めて海神に祈るにあらざれば成就せんこと覺束なしといふ人柱とは人を生なから海中に沈め土功の基礎と爲すを云ふなり公其議を用ゐ時の奉行阿波民部重能主をして關を生田杜に設け刻限を定めて往來の人を捕らへしめしに其者等の親戚身寄は更にもいはす其他悲嘆する者巷に喧しくさすがの公も之を痛み延引すること數ヶ月に及びたり時に讃州香川城主太井何某の嫡子に松王小兒と稱する者あり自ら衆人に代りて人柱に立たんことを願へり公歎息して其願をゆるし石棺を作りて松王を入れ經文を書寫せし石と共に海底に沈め偖再び土功を起したりしに此度は何の障もなく日ならずして成就するにぞこは全く經文の功德を松王の積

に依るものなりとて其處に佛寺を建立し同年七月十三日を以て大供養を執行へり是によりて此地を經島と呼び建立せし寺を經島山と稱せしとかや兵庫名所記には松王小兒白馬に白鞍を置き打乘て海中に入りしとあり巡覽圖繪にも其さまを畫けり今記する所は名所圖會に依る也此事稍々俗說に近きものから明かに古書にも記され又往來の人を捕ふるに當り兵庫の者に限りて免せしに因り今も兵庫の者なり御免候へといへること土俗の詞にも殘りたれば見聞せしまゝ斯くは書付く猶下の條來迎寺の記事をも見るべし或は人柱の事人夫の怠りを警めん爲め淸盛公の作り設けしものなるべしと云ふ說あり寔に淸盛公はどの人にして陰陽家の說に惑ひ海神の祟を恐れ人柱をさへ立んとするには至らざるべし此說書類の考ふべきものなきも其理事實に近きが如し平家物語にも經石を沈めしことはあれども人柱を入れしことを記せず

來迎寺　島上町にあり經島山と號す俗に築島寺とも呼へり應保元年七月

十三日平淸盛公の創造せし所にして淨土宗西山派に屬し本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作又島供養の本尊釋迦佛は天笠橋曇彌夫人の頭髮を以て作りたる長一尺許の繡像にして安元年中平重盛公より宋の醫王山に祠堂金を寄附せし時渡來せしものなりと云傳へ今も當寺に安置せり抑も當寺は築島成就の爲め人柱に立ち海底に沈みたりし松王小兒の菩提寺にして人柱の事は築島の條に記したり寺說に據れば築島既に成り其供養を執行ふに當り神撫山の嶺より紫雲忽ちたなびき諸佛此處に降臨あり松王小兒は等覺圓妙の妙明かに如意輪觀音と立あらはれけるにそ貴賤の渴仰斜ならず淸盛公も奇異の思を爲し感歎のあまり　朝廷に請ひて　尊　勅を五條大納言に下し阿波民部を奉行として七堂伽藍を造營し諸佛來迎の處なれば寺の名におはせしとなり是より住職相繼きて退轉することなく不斷念佛卽往安樂の道場たりしに建武の役脇屋義助主の陣所と成り又其支族に因みあるにより足利氏の爲めに燒はらはされ殆んと靈場を失はんとせしを

空艸上人草庵を結びて其跡を襲ぎ代を重ねて再び梵宇を建立せり今の堂塔是なりといへり現時境内四百坪本堂以下建物六棟境内佛堂四宇あり本堂は壯嚴にして清淨を極め其屋上には經島山と白書せし大扁額を掲げたり佛堂の内觀音堂には松王小兒の觀音と出現したる尊像を地藏堂には行基菩薩の作海邊四十九里以内に安置せし七体の一なりと聞ゑたる地藏尊の像を安置す並に當寺寶物の一なり其他寶庫には弘法大師の作辨財天女の像菅公筑紫下向の時船中作清盛公傳來の伽藍を細刻せし梅仁妓王の短冊同法体の像畫清盛公の筆　安德天皇御畫影同く松王小兒の像平重盛公の書額等を藏し又清盛公の教書二通重盛公同く一通あり清盛公教書の内には大平經島修理の事は大納言國綱卿に任ずとの文意なりとぞ國綱卿は帝都を經營せし人にして差方塚及故都の條にも見ゑたり

松王小兒入海標石　同寺境内にあり高五尺許題して松王小兒入海の跡といふ傍に松の枯木あり元の標木なるべし若松其傍に生立てり植繼ならん

歟三川口町瀧寺近傍にも松王小兒入海の跡と稱する所あり孰れか是なるを知らず寺説には築止めの所に經石を入れ松王小兒の石棺を沈むといへり築止とは築終の事なるべく此處は東南築止め所に當れり

松王塔　同寺境内にあり松王小兒の爲めに建るものなり高凡そ二間許第二層の三面に梵字を刻し四方には石の玉垣を結び其外には手洗石石燈籠等を置けり

妓王妓女塔　同寺境内にあり各一臺つゝに分れり并に土臺三尺許石垣を築き其上に三尺許の塔を建つすべて無銘なり側に標石を建て妓王妓女の塔と刻せり石燈籠手洗石等松王の塔に同じ二女は平清盛公の愛妾にして後菩提心を發して佛門に歸依せし人なり

俳人大魯碑　同寺境内にあり大魯は阿波國德島の人今田何某と稱す任を致して兵庫にあり安永七年京師に客死せり此碑は十七年の後建る所にして其表に左の一句を刻せり

花島のそろへは春のくるゝかな

新川　島上町の海岸築島寺の門前より磯町、切戸町、南逆瀬川の地さきを經て出在家町の海岸に至る堀割をいふ其間二百四十間あり明治九年を以て開鑿せし所にして兵庫港の船入場たり新に開きし水路なるより新川とはいふなり昔は築島寺の側に泊船場あり其入口を築島川と稱し右に折れて入海の形を爲し寺門の前に築島橋を架け船大工町との往來を通せり其東は少許の人家を隔てゝ島上町の海岸ある等該寺近傍は自から島嶼の如く見えたりしに爰に至りて元の泊船場は不用となり埋立て宅地或は道路を開き築島川は其幅を取ひろめて新川の入口と爲したびは左にめぐりて船大工町の裏手を通せしより前日の形勢忽ち一變し今は船大工町新町關屋町濱新町新在家町等は一つらに陸地を離れて島形を爲し築島以下六橋を架して往來を通するに至れり俗に此地を中の島と稱するは此故なりと土人の語るを聞くに當港は地形東北に面し南は一帶に沙灘打つゝきて

船舶の風難を避る所なく年々東北の暴風に遭ひ或は沈沒し或は破損するもの頗る多かりしに此川成就してより其難に罹るもの少なく舟人梶師等稍々心を安ずるに至りしは幸なり然れども南北の入口狹くして出入自在ならず且つ盡く港内の船舶を容るに足らざれば後れし船舶の難に遭ふもの猶少からずといへり然もありぬべし此頃又中央の極所より東尻池の海濱に向ひ一條の水路を開き其間に巨大なる船溜を作らんとするものあり世に兵庫の運河と稱するもの是なりこは去る二十八年より土功を起し今は正に工事中に屬せりいよ〳〵成就するに至れば第一泊船の場所を廣くし又通船は和田岬の險を經て風波の難を冒すに及ばず如何に便利なるに至らんか海漕に從ふ者の一大幸福といふべし

稅關出張所　船大工町にあり神戸稅關の出張所にして明治二十五年神戸港船舶繫留所を擴張せられしにより輸出入品取締の爲め設置せし所なり

水上警察出張所　同町にあり明治二十五年港内取締の爲め設置せしものにして其所屬及取扱へき事柄は所名の如し

阿彌陀寺　新在家町にあり文永八年の創立に係り明治十一年回祿の災に遭ひ同十五年再建せり境内五百八十八坪本堂以下建物三棟境内佛堂二宇あり本尊は阿彌陀佛にして淨宗土西山派なり

両榮社精米所　同町にあり開業は明治二十四年持主は兩榮株式會社にして機關工場一個所職工十餘人あり

柳泉寺　切戸町にあり本尊は阿彌陀佛にして眞宗東派に屬せり永祿七年の創立に係り現時建物五棟境内地三百七十坪あり

寶球寺　同町にあり眞宗本願寺派本尊阿彌陀佛なり創立年代は詳ならざれども天正元年中興の事寺記に見えたり目下建物十二棟境内地三百九十坪あり

神明神社　神明町にあり天照大神　豐受大神の二柱をいつきまつる所

なり創立年代は詳ならざれども慶安六年を以て再建せしことあり今町名を神明と稱するもの此御社あるが爲めなるべし

法蓮寺　同町にあり日蓮宗本尊中央題目左釋迦佛右多寶佛なり應永二年の開基にして目下本堂以下四棟境内地四百七十坪境内佛堂三宇あり

永福寺　南仲町にあり弘安十年六月を以て創立せし所にして文祿三年中興せり境内地は殆ど九百坪建物は本堂以下四棟あり淨土宗にして本尊は阿彌陀佛なり

能福寺　北逆瀬川町にあり寶積山と號す天台宗なり開山は傳敎大師にして延曆二十四年六月唐土より歸朝の時錫を此地にとゞめて當寺を草創し元龜三年長興和尚之を中興せり本尊藥師如來は同大師の作なり又境内佛堂の内地藏堂の本尊は元魚御堂の本尊にはあらざるか魚御堂の事は下に本文あり古書に同御堂の本尊は千手觀音にして當寺の佛堂中にも觀音堂あるか如く記したれども今其堂なし或は車村善福寺の地藏尊なりといふ

と記せしものもあれば此地藏尊なるやも知るべからず目下本堂以下建物十七棟佛堂四宇露佛二体あり境内地は二千坪に餘り所々泉水を設け碑石の類最も多く又戲場あり茶店休憩所も少からず正門には朱碧を施して美觀を極め門樓には一切經樓の額を掲げり寶物の内　聖德太子御所持藤蔓經帙　光明皇后同經卷道鏡自筆の經卷應舉筆釋尊坐像圖平重衡卿筆清盛公供養の記平資盛卿以下在判清盛公菩提地所寄進狀清盛公自畫像影監物太郎頼方主の軍刀漢照烈皇帝自畫像影兆殿司の佛畫等最も珍貴とす其他は枚擧するに遑あらず

大佛　能福寺境内にあり青銅製の坐像にして佛身二丈八尺石臺一丈都合三丈八尺なりと云ふ石臺は東西三十八尺南北四十尺八角面一面十六尺餘佛身は之に準す胎内には彌陀の像を安置し其左右に佛像多し又一の納骨所を設く並に銅鐵の類を用ゐたりこは明治二十二年の建立にして施主は南條莊兵衛氏なり初め獨力建立の發願を起せしに傳ゐ聞きて淨財を喜捨する者多く遂に之を併せて鑄成せり然れとも施主の主なるものは南條氏たること勿論なりとそ

貞婦横山家子碑　同寺境内にあり銅製にして高六尺幅二尺許のものなり正面の篆額は故井上文部大臣の筆其下に子育觀音の像を鐫す左側の文は重野文學博士の撰する所とそ家子は參議篁卿の裔金澤藩士横山隆弘氏の女なり越中の人河村何某に嫁せしも主人の行狀よろしからず家子の諫めをも用ゐざるより遂に赤繩を斷ちて身を退け神戸に來りて其兄に依れり然るに人の再醮を勸むる者多く兄もまた說ひて已まざるにぞ今は其排すべからざるを知り竊に逃れて須磨の浴場に到り僞りて客室を借り人の靜まるを待ちて自刄せしも未だ死することを得ず遂に海に投じて命を致せり而して其碑を當寺に建るものは家子生前佛道に歸依し戒を當寺の住職に受け且又遺言する所ありしに因るとそ其遺骸は火化して骨を寺中に葬れりと云ふ

楠水盤　同寺境内泉水の邊にあり圓形にして直徑三尺許の物なりこは大阪城中にありし百尺以上の老木なりとそ嘗て火災に遭ひて枯死せしを黒田清綱主代取りて花瓶に作り道頓堀の人何某に與へ其室人又當寺に納めしといへり其裏には淀君雨宿の銘を刻せり側に一基の碑あり其顛末を記したり

平忠快墳　同寺境内客殿の庭前にあり忠快主は清盛公の叔父なり一の谷の敗を聞き都を出て〻當寺に到り僧と成りて天命を終れり寺中に剃髪して僧衣を被りたる木像を安置せり

長樂寺　北逸瀬川町にあり壽松山と號す時宗遊行派にして延慶元年遊行第二世他阿上人の開く所なり元は三川口町濱寺近傍に有しを此處に移せしとぞ現時境内九百六十餘坪本堂以下建物五棟佛堂五宇あり本尊阿彌陀如來脇立觀音勢至二菩薩及境内佛堂地藏尊の四像は聖德太子の作なり又遊行第一世一遍上人第二世他阿上人の筆本尊名號片桐市正主黒印證文等を藏せり境内佛堂の内には延慶六年及安永九年の創立に係るもの各一宇あり

一遍上人御笠松　長樂寺境内にあり老幹兩岐して殆と寺庭を掩へり其下に方二間許の石柵を結び宗祖上人御笠の松と題せし碑石を建たりこは當派の高祖一遍上人巡國の際御笠を此松にかけられしより此名あり當寺を此處に移せしも實に此由緒あるに因れりと云ふ

眞福寺舊蹟　同町長樂寺の南にあり今も其字を眞福寺蹟と稱せり當寺は小松内大臣重盛公の建立せし所にして祗王祇女も暫く此處に留り平家一門の菩提を吊ひしと也廢寺の年代は未た攷へされとも享保年間の版本にも記したれば近世の事なるへし

滿福寺　東柳原町にあり梅松山と號す時宗遊行派なり延慶元年二代遊行上人の開基にして本尊十一面觀音は菅公の作なりと云傳へり又雲慶の作觀音勢至兩菩薩の像菅公自畫の影像等を藏せり目下境内地八百五十坪本

堂以下建物四棟境内佛堂二宇あり本堂以下は近年火災に罹り堂宇悉皆燒失せしにより明治二十五年を以て再建せしものなり

天満宮　濱崎通にあり此地は元東柳原町に屬し滿福寺の境内なりしを維新の後區分して獨立の神祠と崇めまつれり

兵庫分監　須佐野通四丁目にあり其敷地は松原芦原の兩通にも跨れり兵庫監獄署の分監にして元兵庫假留監の跡なり建物の宏壯なること本監に讓らず本監の囚徒を分置する所なり

眞光寺　須佐野通一丁目にあり西月山と號す時宗にして本尊は當派の宗祖第一世遊行一遍上人智眞圓照大師なり其自作等身の像を本堂に安置せり抑々當寺は正應二年一遍上人の開く所にして同上人及第四十四世遊行上人示寂の地たり第三世眞教上人の時播磨國守赤心圓心檀主となり四圍八町の境内及寺祿數百石を寄付せしことあり其後尊觀法親王の　後村上天皇の東宮より遊行第八世上人の徒弟とならせられ御得道の後當寺第六

世の住職に据り賜ひしより以來遊行　上人兼帶となり別に住職を据へず御院代を置きて法務に任せしめ又其際より御輪旨頂戴小御所の間埋梱内一疊目内の待遇を賜ひ菊桐金紋付先箱にて諸禮式を勤めしこと　孝明天皇の御宇に至るまで代々變改なかりしに維新の後は自然に絶ゑ今は御院代兼住職となり寺格は大檀林に列せられたり古書には　仁明天皇の御宇僧惠蕚といふものあり入唐せしとき宋王より大悲の尊像を賜り歸りて和田の御崎に至れば乘る所の船俄に動かず惠蕚は之を見て大悲有縁の地なりと爲し當寺を創立して尊像を安置す其後一遍上人中興の祖となり閣浮檀金大悲の尊像を置けりとあり又本尊は彌陀觀音勢至の三佛なりと見ゑたれども今の寺説とは相違せり但し今も境内に觀音堂あり上人所傳の尊像も亦寺中にありといへり目下境内地七千餘坪本堂庫裏書院經藏以下建物九棟佛堂八宇寺院五宇あり佛堂の内七宇は正應二年一宇は仁安元年の創立に係り寺院は文祿天正頃の創立に係れるもの多し正門の外には

時宗元祖一遍上人示寂之地大道場眞光寺」と刻する標石を建て正門大道場の額は紀州前大納言治寶卿の筆本堂宗祖大廟の額は小松宮彰仁親王殿下の御筆開山堂法王閣及觀音堂大悲殿の両額は並に　晃親王殿下の御筆なり又境内に三十三体觀音の石像を安置し西國三十三個所の靈場に擬し其邊に一基の銅牌を建て題して觀音出現の靈場といふ文は當時住職往阿僧正の撰する所にして觀音出現の事石佛安置の事を記せり寶物の内弘法大師作黄金毘盧遮那佛、行基菩薩作柴銅同上運慶作彌陀觀音勢至三像釋尊念珠の玉　後宇多天皇　宸翰　東山天皇　後醍醐天皇　伏見天皇の勅額、菅公自畫影像、土佐光信筆定家卿贊人丸畫像、一遍上人筆紫雲名號等最も名あり其他略之

一遍上人廟　眞光寺境内にあり四方土墻を廻らし北の方に當りて廟門を開き門内右の方に石陛あり其上に五輪の塔を建て塔下には二重の臺石を敷けり抑々一遍上人は時宗の宗祖遊行第一世上人にして豫州の人河野通

廣の子なり建長中髮を薙きて智眞と稱す念佛を以て四衆を化度し六十万人決定往生の札を弘め六十餘州を廻國せしに正應二年八月二十三日當寺に於て遷化せり因りて寺の域内に葬る今宗祖の廟と稱するもの是なり

第四十四世遊行上人墓　同寺境内にあり元祿八年五月十一日當寺に於て寂せしを此處に葬りしと也第二の臺石に遊行四十四世尊通大和尚と刻せり古書に遊行塚とあるは前の廟と此墓とを云なるべし

頌德碑　同寺境内にある大碑にして表に大檀林の三字を大書す當住職往阿上人の筆裏の題額は積功累德とあり周布知縣の筆文は神田兵右衛門主の撰する所なりこは當住職第二十世往阿上人の德を頌するものにして同信徒の組織せし頌德會より建てしものなりとぞ

遊行柳　同寺境内にあり四方石柵を廻らし其下に左の碑を建たり

遊行十九代上人朽木の柳の性靈を結縁し賜ひし下野國芦野の里道の邊の柳の一枝を元祖上人示寂の御寺に携來りて

聞て又杖ついて見る柳かな

大悲學校　同寺境内にあり元は佛弟子を教ゆる所なりしも尋常小學に就く能はざるものを教授するに至り今は學科を階梯正則の二科に分ち階梯科は尋常小學同程度の諸學を正則科は佛學を授く

銅露佛　同寺境内門邊の池中にあり釋迦の坐像なり長一丈六尺寶暦年間の建立なりとそ色澤頗るうるはしく又能く佛相を具備せり

良燧社憐寸製造所　松原通二丁目にあり泉田よね刀自の所有にして福原町萱合村にも分工場を置けり職工の數は男百五十六人女六百二十五人都合七百八十一人なり

逆瀬川　南逆瀬川町より新川に合流する小川をいふ水源を兵庫の西北にある皿池に發し西國街道を横ぎり兵庫市街の西部を過ぎ眞光寺の北手を經て此處に至るなり昔は今の中島を貫流して海に入り水深く川幅も亦廣かりしに今は纔に二三間の小川となり水も亦清からざるに至れり其名を

逆瀬といふものは海邊潮水高く河水常に逆流せしか故なりとそ此邊を逆瀬川町といふも亦此川あるが爲めなるべし

和田笠松　〃　逆瀬川町御崎橋の側にあり古松は枯れて植繼なりと古書に見るたり地圖を按ずるに御崎橋は今の南逆瀬川町駒ケ林道の内眞光寺門前より半町許北の方新町橋と稱する石橋に當れり今も石橋の東に其跡と稱する所あり四方民家を遶らし其間にある四畝許の空地なりといへり近年まで一本の古松あり其下に稻荷の祠ありしも新川開鑿の際松は堀起し祠は同町住吉神社の境内に移せしとそ世に和田岬の一ッ松を笠松なりと云ふものあれども非也但し古圖の示す所は橋の西に當り今其跡と稱する所は橋の東にありいかにや

秋風の吹來る峰の村雨にさして宿かる和田のかさ松　爲家

木末までかゝれる蔦の紅葉して錦を織や和田の笠松　季經

住吉神社　南逆瀬川町にあり祭神は　上筒男命中筒男命底筒男命息長帶

比賣命の四柱にして村社格なり境内にある稲荷神社は前に記せし笠松のありし所より移轉せしものなりとぞ

平相國清盛公塔　同町にあり俗に清盛塚と稱す十三層三丈一尺の高塔にして臺石は方五尺一寸あり弘安九年二月と彫付たり西勝園寺貞時主の建る所なりとぞ東鑑に治承五年壬二月四日戌刻入道平相國薨す遺言に遺骨は播磨國山田の法華堂に納めよ云々と記し又本朝編年集成には翌日經と爲し圓實法眼遺骨を福原に持來りてこゝに藏むと記しありとかや此地は元八棟寺の跡にして八棟寺は相國の建立する所なり元亨釋書に治承四年道場を福原に營み法華の法を修すとあるは此寺なりと記せり遺言に謂ふところの法華堂は此處なるやも知るべからず古書は多く骨を埋めし地なりといへり今傍に事務所あり明治二十八年の建設にかゝり塔及び八棟寺再興の事等を扱へり

身後空留土一丘、攝山風月使人愁、誰知掌大孤墳主、宗族

嘗憑六十州

但馬守平經正卿墓　同町にあり平相國塔と相對へり瑟琶の妙手なりし故瑟琶塚ともいへり攝陽群談に携ふる所の瑟琶と共に葬りし故瑟琶塚といへりと記せしも平家物語には御室の御所にかへし奉りし事を記し史にも奉二還瑟琶一而去とあり此說非なるべし又塚の形瑟琶に似たるか故なるへしとの說あれとも今の實地は然らず是も亦實としがたし地面道路より高きこと二十尺許此程大に修理を加へ奇石をならべ嘉樹を植へ宛然庭園の如き觀あるに至れり塚上碑あり高三四尺其表に瑟琶塚と刻し其傍に子日庵宗匠の碑あり福原懷古茅御所以下八句を記せり其內瑟琶塚の句に曰く

瑟琶塚や草のかけよりむしの聲

失名氏

八棟寺舊蹟　同町平相國塔の近傍なるべし土人此邊を八棟寺跡と稱せり當寺は承安二年福原遷都の際平清盛公の建立せし所にして山號を太平と

いひ七堂伽藍壯宏なる巨刹なりしも天正年間兵火の燒く所となり今はたゝ其名のみを殘せり兵庫名所記には今石すへの跡のみ殘るとあれと現時はそれすら詳ならず

須佐入江　同町南部の地をいふ名所圖繪には瑟琶塚の南をいふ今は田圃と成れりとあり近年此邊の新市街に須佐野通入江通等の名あるも之に因みておはせたるものなるべし證歌の内あちのすむ」の一首は攝津にあらず戀をのみ」の一首は下總尾張の兩國なりとの說あり異地同名歟兎に角此地に須佐の入江ありしことは疑なからん

あちの住須佐入江のこもりぬのあな息つかしみすひきにして　万葉集

冬くれは須佐入江のこもりぬも風寒からしつゝらゐに鳧　顯朝

夜を寒みすさの入江に立つ千鳥空さへ氷る月に鳴也　續古今集　よみ人不知

みさこゐる渚沙入江に滿汐の辛しや人に忘るゝ身そ　愛法師

戀をのみすさの入江に住む魚の浮ぬ沈ぬ昧氣無世や　家隆

茅御所舊蹟　同町の南にあり田圃の間に石の印ありと古書に見えたれども今は大藏省所屬米廩の内となれり清盛公此處に三間四方の茅葺の御所をしつらひ　後白河法皇を押こめ奉りしとそ又樓御所ともいへり又樓を牢に作るものあり史には

作二宮夢野一以奉二法皇一」とあり土地やゝ違へり如何にや相傳ふ文覺上人の平氏追討の宣旨を請受けしは此處なりと

藥仙寺　同町にあり醫王山と號す時宗なり天平十八年行基菩薩の開く所にして本尊藥師如來は同菩薩山陽下向の爲め當地に至りし時土中より異香を放ちて出現せし靈佛なりと云傳へり古書には本尊阿彌陀佛　聖德太子の作とあれども今の實地は然らず建武年中　後醍醐天皇隱岐國より還幸の時龍体御惱あり當時の泉水を汲みて御藥を調し奉りしに忽にして平癒ましゝければ勅して醫王山の號を賜ひ藥仙寺の勅額を下し賜はりしとそ今も本堂以下建物十二棟境内佛堂四宇坊舍二個所現在し境内地は殆

んぞ四千坪に亘れり中にも本堂は凡そ七八百年以前の建物にして方七間あり坊舎は幷に文明十八年の創立なり佛堂の内觀音堂には　聖武天皇御惱平癒の爲め稽文旨稽首薫に勅して彫刻爲さしめ賜ひし尊像を安置し脇立不動尊毘沙門天王は長谷の觀音の應驗により得たる所の尊像なりと古書にあり今も堂上に長谷試十一面觀世音菩薩と記せし額を掲げ古書の記する所やゝ實地に相違すれども長谷の觀音とは大和國長谷寺の本尊なるべし長谷の觀音に由緣あることは疑なし但し

靈佛出現地　藥仙寺境内にあり由來は同寺の條に詳かなり靈泉涌出の所も同所なりといへり徑二間許圓形の池を穿ち其中に藥師の石像を安置せり深さ凡そ三尺許水涸れて平地の如し其邊に碑あり後醍醐帝御藥氷藥師出現古蹟涌水」と題せり

靈泉　同寺境内觀音堂の東にありと古書に見えたり近著の書にも水質極めて清潔寒暑に增減なし當時此泉を需用するもの數十戸ありと記せりこは皆堂下にある井水を指すなるべし然れども靈泉涌出の地はやがて靈佛出現の地なること前條の碑文にて明かなり寺說も亦同所なりといへり其由來は藥仙寺の條に見えたり

魚御堂舊蹟　藥仙寺の東北にありと古書に見えたれども其地新川となりて今は古蹟をとゝめず當所は大職冠鎌足公の本願にして稱名寺といへり一に大唐山興福寺ともあり天正年中荒廢せり毎夜諸魚詣てゝ龍燈を本尊に捧げしより此名ありとぞ

淨業寺　藥仙寺の南字鐘鑄場にあり本尊阿彌陀佛にして淨土宗なり目下本堂以下建物三棟境内地三千餘坪佛堂一宇を有す慶長九年の創立に係れり

鐘鑄場共葬墓地　淨業寺境内より東に亘れり兵庫南部の共葬地にして區域頗る廣し此處力士の墓最も多し

六字名號塔　鐘鑄場共葬墓地の中にあり法然上人の眞筆にして万年山千

僧寺の遺物なり千僧寺は解脫上人の開基に係り行基僧正一千人の僧徒を集めて供養せしことありしゆへ千僧寺と稱せしとぞ承元年中法然上人讃州下向の時阿彌陀經一千卷念佛一百万遍を修して法會を行ひ諸佛供養の爲め此塔を立しと云ふ塔の高六尺許其表に南無阿彌陀佛の六字を刻し其上に瓦葺の屋形を作れり

新川花街　今出在家町にあり其地新川の南に沿ひたるにより新川の花街とは云ふなり娼妓の數百十八人貸席十五軒にして宮本、新川、繁榮の諸樓名を其内に得たり繁華の福原に及はざるは勿論なるも日々船舶の出入多く隨ひて客足も亦まばらならず

日本精米會社精米所　同町にあり明治二十年九月を以て開業せしものにして蒸滊仕掛の工場二箇所を有し職工の數七十人毎日精する所凡そ三千石なりと云ふ其持主は所名に同じく當社は外に玄米の海外輸出及内地販賣の業をも兼ねたり

浮橋　同町より出在家町に向ひ新川を渡す所なり箱形の木材を浮べて橋に代ゆ當所は新川の入口に當り船舶の出入日々多く普通の橋梁を架することと能はず故に此浮橋を作り中央を切斷して三段と爲し船舶の出入ある毎に自由に開闔し其出入に妨なき樣作り做したり

大和田泊　或は大輪田に作る又和田の泊ともいふ和田の海、和田の濟和田の沖などいふも凡そ一つ所なるべし今の和田岬より北の方兵庫の地を指せり史に天長八年三月大輪田の泊を作るとあり又承和年間入唐使の船此澳に泊せしこと續日本紀に見ゑたり或は西成郡大和田村に屬すともいへり然れども當地も昔より和田と呼びしこと諸書に見ゑ其岬角を和田の御崎と稱するは昔も今もかはることなし新拾遺集平經正の詞書にも

福原に侍りける頃人々長月のつこもりに和田の海邊に云々」とあり又

夫木集平明の歌に

夜をこめて和田の濟を漕ぎ來れば淡路の島に月そかゝれる」とあり其

外和田の御崎の古歌に湊川武庫の浦などよみ合せたるもの多しやゝ新しきも證と爲すには足るべし但し大輪田は西成郡又は近江國にして和田は當地なりとの説あり或は然らん歟土佐日記に

此間和田の泊のわかれの所といふ所あり」とあるを當時船路の序より考れば西成郡の大和田なるが如しこは東西地名同く且共に攝津國にあり議論定らざる所以なるべし夫木集後九條内大臣の歌

大和田の濱の松吹浦風にしかのてこらか袖かへる見ゆ」とあるを當地とし之を證にひきし古書あれども恐くは近江國ならん同國にも和田の海あり海あれば濱も浦もあるへし又志賀の大和田ともいへり

入日さす方を眺めて和田の海涙路に秋を送る今日哉　經正

大和田の浦和に今宵船とめて清き濱邊の月を卒見ん　貝氏

和田の海に降白雪は消ながら波の心に寒さをそそむ　不知人

秋風も絶てな吹きそ和田の海沖なる玉藻我つゝ迄に　仝

大和田濱　前の海岸をいふなるべし西成郡又は近江國といへる説ある事前に同じ

濱清く浦なつかしみ神代より千船集る大和田のはま　福広呂

和田入江　攝陽群談には兵庫にありと記し名所圖會には兵庫北濱の入江をいふと記せり兩説とも慥ならず其證歌に

盤風は鳴尾の松に音づれて和田の入江に殘る月影」とあり鳴尾の松云々とあれば西成郡の大和田にはあらざるか

和田岬　兵庫和田崎町以南の地をいふ昔は和田崎とのみ稱たりしを　推古天皇此處にて御禊し賜ひしより御崎とは呼びはじめたりとぞ今は岬と書けり應保年間平清盛公の兵庫の港を築くに當り風波を拒ぐ爲めに修築せしことあり爾來土砂集りていよ〳〵尖角を生ずるに至れり地勢は海中に突出したる洲崎にして東南は波涙天を醮し紀路和泉路の山々は翠をこめて淡路の島山と相對し筥か島の海峽を出入する大船の煙は大空に立の

はりて遥に海上の雲になひき渚近く打わたす千船百船は咫尺の間に馳せ
違へり西は一帯に松原打つゞき遠く須磨の浦上を望み鐵枴が嶺より東の
方鷹取磨耶武庫の群峰屏風の如く立つゝき鵯越天王峠さては夢野生田の
杜をはじめ神戸兵庫の諸市街近傍の籬落に至るまで渾て一望の内に集る
等江山の眺云はん方なく推して市内第一の勝地とはするなり古書には畿
内双ぶ所なしと記せり偖當所の證歌は　入道前太政大臣

夕付日和田の御崎を漕船のかた帆に引や武庫の浦風　み不よ人知

めくり來ぬ和田の御崎の車船苦しき旅の日數也けり　觀意

湊川こき出て聞けば子規和田の御崎の松になくなり

和田松原　海岸の松原をいふ古書には兵庫の町盡頭より尻池駒ケ林に打
つゞけりと記せしも今は伐ひらきて殆んど跡なくわづかに岬近傍の一部
を殘せり

遠矢濱　和田岬の松原をいふ建武三年五月二十五日新田足利兩家對陣の
時官軍本間孫四郎重氏主の遠矢を放らて弓勢をあらはしたる所なり太平
記に
孫四郎重氏只一騎和田の御崎の波打際に馬打寄せて云々」と記せしは
此所なるべし昔より目標の認むべきものの無かりしを近き頃消毒所の北手
に本間重氏遠射之趾と刻したる碑を立しものあり今は紛れなきに至れり

延喜山　和田の松原の中にありしと云ふ長三町幅一町許にして　醍醐天
皇の　行宮とせられたる地なるにより其年號を採りて山に命せしと言傳
れども今は指す所詳ならず遠射の碑より少し西に當れる小阜を目して是
なりと云ものあれども如何にや巡覽圖繪には會下山の一名なりと記せり
此說も信じ難し但し　天皇の此地に行幸ありし事は國史に見えず

和田岬消毒所　遠射の碑の南にあり内務省の所管に屬し傳染病流行地よ
り來る船舶を檢し其乘組人に消毒法を施行する所なり

和樂園　一に水族放養池と稱す和田岬の東南消毒所の東手にある私立遊

園地にして料金を取りて公衆の遊覽に供する所なり當所は明治二十八年第四回内國勸業博覽會の付屬水族部及水族放養場となり本年も亦水産博覽會の水族放養場と爲す筈なりとぞ其地域は濱地八千坪を有し其内に數十の池を穿ちて水族を養ひ又別に水族室勸商場等をも開けり中央にある一棟の高樓を眺望閣といふ洋風の三層樓にして第一層に上れば四方眺めひろく景色の佳絶なること命する所の名に背かず近傍には茶舗割烹店軒を並べ又海水を沸して客の浴遊に供せり斯れば此處に遊ぶ者日夜間斷なきも有繁に市街を離るゝこと數十町の外にあれば何となく境靜なる心地せられ彼の海水に浴して杯を呼び茶を命ずるも趣ふかゝるべくわけて鱗魚の池中に戲れるさまも愛らかなるに代を納れば客の鈎取るに任せ餌さては鈎針鈎絲の類を貸す家さへあり時ならぬ海さちを得鮮魚のかだまの裏に踊を見て興するものも多しとかや

砲臺　和田岬和築園の東南にあり目下陸軍省の所轄に屬せり築造年代は

攻ふべき書類なきも開港以前幕府の沙汰として勝安房守主の築きし所なり近年迄は軍艦の出入ある毎に祝砲を放ちしに今は其事も已に絶ゑ只その形を殘すのみなり

燈臺　和田岬砲臺の西手にあり内外諸船舶をして航路を識別せしむる爲め建設せしものにして航路標識管理局の所管たり其構造は白色六角形鐵造、燈質は第四等不動紅色高さは水面より燈火に至るまで五丈二尺基礎より同く四丈六尺光は十二里を照らすと云ふ初めて点火せしは明治五年八月二十九日にして其當時は木製八角形なりしを同十七年を以て今の如く改造せり昔も此邊に燈臺あり其迹已に詳ならざれども

消ぬべき法の光の燈はかゝぐる和田の御崎なりけり」とよみし古歌猶殘れり今此燈臺ありて遠くいにしへの名殘を照らし更に明らけきこと當時のたくひにあらずとも又大御代のしるしとやいはまし

不レ似陳頭射レ鶚年、泰平風物自融然、夜來更有二燈光閃一照盡

米英魯佛船　失名氏

石油倉庫　和田岬和樂園の北にあり石油を貯藏する爲めに建設せしものなり石油倉庫株式會社の所有にして構内には煉瓦倉庫二十四棟を立ならべ每棟各々百二十四坪あり一坪に付き石油三百函を容るゝに足る又鐵製油槽三個あり其二は直經五十七尺高二十五尺其一は直經十五尺高十尺餘大なるものは石油五百函の容量に當るといふ海岸の棧橋には一の油槽あり鐵管を構内の油槽にひき船舶より石油を注入し得べく作り做せり棧橋の事は下の條に詳記す

和田岬鐵道棧橋　石油倉庫會社の構内にあり橋下より軌道を作り山陽鐵道和田岬支線に聯絡せしむ之は石油倉庫山陽鐵道兩會社の架設せし所にして各其貨物を運搬する用に供するものなり棧橋は長四十尺幅十尺あり

和田神社　和田崎町にあり祭神は　天御中主命にして相殿は　市杵島姫命　姪子命なり俗に海上鎮守の大神と稱するは此故なるべし當社は寛文

六年の創立に係り維新の際村社に列せられ明治六年鄕社に十一年縣社に進めらる傳へ云ふ昔洪水あり武庫郡小松村鎭坐押照神祠の神輿漂流して此地に留りしを村民之を祭りて和田神社と崇めしと社前の右手に影向の松と稱するものあり神輿のかゝりし松也といへり目下社殿拜殿以下建物十餘棟境内神社三宇あり孰も壯宏にして且清淨なり

和田公園　和田神社境内にあり明治六年を以て開きし所にして面積五反餘歩を有し一般の景色最もよく境外には堀を穿ち嘉樹を植ゑていよ〳〵風致を添へ境内は社前の老松蒼鬱天に參するあり泉石の排置亦宜しきを得たる等市内惟一の公園地と成れり

三石神社　和田神社の西北にあり地は今和田新田に屬せり　神功皇后應神天皇を祭れる村社なり　皇后三韓を征し賜ふ時腰に石三個を挾み事畢るの後安産あらせられん事を祈り賜ひし所なりとそ今も孕婦祈願すれば安産するなりとて御社の小石を受けて守とするもの多しといへり名所

圖會には　挽古天皇夷賊退治の爲め此處にて禊しひ賜ひし時玉坐と定められし石を三石といひ祠を禊殿と云と記したり但し同書にも産婦祈願すれば臨産に艱なしとあり今の實地も亦然り前説事實に近し

吉田新田避病院　所在の地は名の如し内務省の所轄にして入港船舶に乘組たる傳染病者を移す所なり

吉田新田紡績所　吉田新田と稱するは時俗の呼習はす所に從ふなり其地は東尻池村に屬し字を棟東といへり地盤吉田新田に近きを以て此名あり又東京鐘ヶ淵紡績株式會社の支社なるより本社の名を借りて鐘ヶ淵紡績會社ともいへり當所は明治二十八年十二月を以て開業せしものにして搆内は凡そ東西一町餘南北二町餘に亘り其内に瀝關室以下數十棟の大屋を建つらね又海岸に荷揚場を作り軌道を敷くこと三四町許直に搆内に屬して荷物の運搬に便せり職工は男女合せて凡そ一千餘人之を分ちて二組と爲し晝夜交代して業を執らしめ猶ほます〳〵擴張せんとする模樣あり縣

下稀に見る所の大工場なり

福原故都　指す所さだかならず古書に夢野烏原石井平野荒田阪本宇治野花隈中宮北野生田宮神戸二茶屋宿兵庫今和田新田を福原莊と稱す」とあり果して是ならんには凡そ今和田新田以東舊生田川までの間なるべし然れども寛永元祿年間成版の書には其事なし享保以後の版本に見ゆるのみなり或は古名に依りて莊を呼びしにはあらざるか古書に和田の松原の西の野に於て九城の地を割定めし由を記せしものあり現に内裏跡の東尻池村にあるを見れば其所も新都の一都なりしと疑なし福原莊の内に尻池なきは不可思儀なり源平盛衰記には新都の地形を記して

北は神明垂跡生田廣田西宮各甍をならべたり」とあるも餘り曠漠として區域判然たらず甚しきは兵庫の内にあり抔傳ふるものあり兵庫全体と爲すも尚規模狹少なり況して兵庫の内といふ愈々非なるべしては内裏跡

を目して都と云傚したるにはあらざる歟兎に角東尻池以東の地を指す方誤なきに近かるべし抑々皇都を當地に遷せしは治承四年六月二日にして時の人

咲出る花の都をふり捨てゝ風ふく原の末そあやうき」との落書せしは

是時なるべし當時池大納言頼盛卿の山莊を以て假の皇后と定め公卿百官安德天皇を奉して此處に移りそれより九城の地を割られしに五條までありて以下無かりければ百敷の政を行ふべき地にあらずと爲し同年の十一月を以て舊都に還幸ありしよし諸書に見えたり或は一度は東尻池の皇居に移り賜ひしともいへり雅有卿故都の歌に

湊川夕汐みちて風寒み古きみやこに千鳥鳴なり」とあるは此處なり

福原内裏跡　東尻池村字寺山の地をいふ福原遷都の際皇居を建られし故跡なりと云傳へり古書には御溝猶存すとあり近著の書にも福原内裏分石と刻せる石標をとゞめ方四町許築地の跡遺れりと記したれども明治二十

三年山陽鐵道和田岬支線敷設の時土砂を堀取りて昔の形を崩し近き頃又運河開鑿の爲め土砂と盛りていよ〳〵形跡を失ひ石標は其以前同村寶滿寺の境内に移し今は只西北の敷地一部を殘すのみなり、猶福原故都の條を參觀すべし

寶滿寺　同村字寺開地にあり金剛山と號す當初は眞言宗今は臨濟宗南禪寺派に屬せり弘仁四年弘法大師の開く所にして本尊大日如來は同大師一刀三禮の作なり外に唐土より傳來の佛舍利水晶五重塔閻浮陀金の鈴等を安置せり當寺は初め金剛寶寺と稱し又峰寺とも稱せしに大師高野山を開きて金剛峰寺と稱するに及び當寺を金剛山寶滿寺と改稱せり壽永の亂寺宇堂塔を擧て兵火の燒く所となり殆んど荒廢に屬せしに文永年間法燈國師中興の祖として化道大に作り元亨年間足利尊氏公當寺を過り願文一通を捧げて西國に趣きしに其後多々良濱の戰に著しく靈應あり天下一統の後七堂伽藍を再建せし上多くの寺領を施入し又寶滿護國禪寺の扁額を寄

附せしも伽藍は類火の爲めに烏有に歸し寺祿は荒木村重主の沒收する所となり扁額さへ既にある所を知らず其以前平清盛公も尊信殊に深く護國殿の額を自書して寄付せしこと舊記に見ゆるも是また伽藍と共に燒失せしとぞ今寺内には法燈國師自作の像及清盛重盛尊氏三公の位牌を安置し又尊氏公の髮髮を藏せり又境内には福原内裏跡にありし分石二基佛像を彫刻せし捧石一基あり分石は境界を示すものにして前條内裏跡の處に記せしもの是なり捧石は只佛像一體を認るのみそれ且ら半は蝕滅し外に字形あるや否分明ならず其古色を帶ふる所より攷ふれば福原故都の遺物たること疑なし抑當寺は元内裏跡の地にありしを皇都經營の際當地に移せしなりと云ふ說あり考證未だ確ならざれども其地の字を寺山と呼び近年までも當寺の所領たり且清盛公父子の位牌ある等平家一門に關係あること論を待たず今其遺物を境内に移せしは是等の因緣あるによるといへり

法隆寺蹟　同村寶滿寺の隣地にあり法立寺と書するものあれども非也眞野山と號し福原三十三番靈場の一にして其名世に聞えたりしも維新の後廢寺となり今は觀音堂一宇を殘し寶滿寺の付屬となれり

八幡神社　同村字眞野にあり射場八幡宮といふ大同二年宇佐八幡宮を勸請せしものにして祭神も卽　應神天皇なり　神功皇后三韓征伐の砌此處にて弓初の式を執行はせられしより此宮居を建立せしと云傳へり射場八幡と稱するは此故なるべし今は社格なく境内地二十坪許社殿方一間位に過ぎざれども由緒の正しき年代の古き神さびていと畏こし

匂梅　同村民家の間にあり路傍に玉垣を結び木の下に一基の碑を建て匂の梅の三字を題す其下に

風寒みて雪にまかへて咲花の袖にそうつれ匂ふ梅か香」と刻せりこは管公の御詠なりとぞ所傳に云ふ昌泰四年公大宰權帥に左遷せられ下向の道すがら船を和田御崎にとゝめ順風を待賜ひし時はるかに此梅花の薰るを聞きとめ得て木の下に休ませ賜ひ右の一首を遺して打立れしと左の二